

<資料と資料解説>

殉職警察官家族インタビュー（2件・沖縄）の検討——殉職の社会学のために——

梶田美雄

神戸市看護大学

[Kashida.yoshio@nifty.ne.jp](mailto:Kashida.yoshio@nifty.ne.jp)

キーワード：

殉職，殉職者家族，追悼，社会的死，地域と国家と家族

1 はじめに—今回の「殉職警察官家族インタビュー」について—

本稿，すなわち「殉職警察官家族インタビュー（2件・沖縄）の検討 - 殉職の社会学のために -」と名付けられたこの<資料と資料解説>は，筆者が，研究協力者とともに，2007年に沖縄で行ったインタビュー（2件）の記録に，読者の便宜のための簡単な解説と注を付したものである．このインタビューは、『死の社会学的研究』（研究代表者は副田義也金城学院大学教授＝当時＝，研究課題番号は17203034）という文部科学省科学研究費補助金による調査の一環として行われた．

当該科学研究費の活動は3つの班に分かれて実施されており，筆者は，藤村正之（上智大学）をリーダーとする「追悼班」のメンバーとして，研究活動に従事し，その企画の中でこのインタビューを行った．沖縄県警に依頼事項を話し，2件の殉職警察官家族を紹介してもらった．一件は，比較的近年の殉職であり，もう一件は，第2次世界大戦の沖縄戦における殉職であった．

なお，今回掲載されている殉職警察官家族インタビューは，複数回試みられたインタビューのうち，2度目の成果である．じつは1度目は，2007年1月第一週の，大学の冬休み期間中に，準備されていたのだが，移動日の午後のインフォーマントとの面談に向かう，神戸空港からの飛行機の中で，筆者が急病で動けなくなり，結局，空港から救急搬送されてしまったため，キャンセルになっている<sup>1)</sup>．その後，胆嚢切除手術に成功し，健康を回復したのち，再度の日程調整を行い，同年8月にインタビューを実施した．複数回の企画と調整の作業に対応して頂いた沖縄県警をはじめとする関係各位に深く感謝したい．

調査対象地を沖縄とした理由（アイデア）は，3つある．第一に，沖縄では，追悼班の一員として，南風原（はえばる）文化センター（南風原陸軍病院壕からの発掘資料等を展示），旧海軍司令部壕，ひめゆり平和記念資料館，沖縄平和記念資料館，沖縄県公文書館，対馬丸記念館等の各施設をまわり，各所でインタビューや資料収集を行ったため，ある程度の土地勘ができていたからである．第二に，沖縄は，「仏教の影が薄く，そのために仏教以前の死に関する各種の儀礼を想像できる諸習俗がいまだに残されている」（酒井卯作，1987→2001:1）と民俗学者の酒井が述べているように，日本における社会的死や追悼の問題を考える際に，地域における祭祀習慣からの影響を本格的に検討でき

る地域とみなせるからである。第三に、沖縄は、1872年から1879年にかけてなされた、いわゆる「琉球処分」（明治政府のもとでなされた強行的な廃藩置県）で日本に組み込まれた歴史からもわかるように、日本の国内植民地としての歴史を持ち、国家による追悼と地域的な追悼との間に緊張関係が存在する地域であるように思われたからである。今回のインタビュー事例でいえば、第二インタビュー事例は、第2次世界大戦時の殉職だが、殉職当事者が所属していた「県」は、内務省から派遣された県知事がトップの、国家機関であった。しかし、殉職当事者本人は、沖縄出身者であり、その家系は、地域の名士であった。そういう関係の中で「追悼」がどのような意味を持ちうるのか、考えてみることは、追悼の一般理論を構想する際に有意義であるように思われた。

## 2 一つ目の問題意識－追悼の多重性の解明について－

つまりは、今回の「殉職警察官家族インタビュー」は、「追悼」というテーマのなかでも、軍や警察に関わって生じる追悼の多重性に社会学的興味を持ってなされたものである、ということができる。

具体的には、以下の3つの「多重性」の検討が課題となろう。すなわち、殉職者家族による追悼と職場組織による追悼の多重性（多重性1）。前近代的地域習俗による追悼と近代的組織による追悼の多重性（多重性2）。そして、沖縄という国内植民地内部での追悼と日本国という外部での追悼（多重性3）。この3つである。

じつは、上記と類似の問題関心のもとで筆者は、南風原陸軍病院壕の地域観光資源化プロセスを検討し、樫田（2008）を科研費報告書に執筆している。

すなわち、南風原陸軍病院壕に収容されていた軍人のほとんどは、本土からの県外出身兵であり、したがって壕内で死亡したのも、その大多数が、地元の人間ではなかった<sup>2)</sup>。そのため、戦後しばらくは、この病院壕は、南風原の町民にとっては、よそ者が死んだ場所であり、「追悼」の対象とはなっていなかった（この部分には、ヤマトンチュの兵への微妙な感情からの影響もあったのかも知れない）。けれども、1972年に沖縄の施政権がアメリカから日本に返還され、病院壕が、日本の戦争遺跡としての価値を高めていくなかで、地元の人にとっても、病院壕を追悼の対象とする、象徴的な意味の構築が可能となっていた。すなわち、意味のすれ違いから、意味の重ね合わせに潮流が変わっていった。つまり、沖縄南部の交通の要衝である南風原の地政学的位置から考えて、ここに病院壕があったことも、日本軍に続いて連合軍（米軍）が、南風原を通過して沖縄本島の南端に進軍していったことも、歴史的必然性があることがらであると、地域住民に理解されるようになっていった。そのような、陸軍病院壕に対する地元的な意味付けの変化に加えて、病院壕のあった山が、昔からの、祖先に対しての追悼の場であったという符合も発見され、かつ、南風原町の将来的なまちづくり戦略においても、この地政学的地域祭祀的意味付けをもった山を観光資源とすることが有意味であることが理解された。これらのことを、佐藤栄作の施政権返還前の時点での病院壕訪問等と関連させて、樫田（2008）では論じたが、本稿の位置付けは、この科研費報告書論文の視点（地域の追悼と国家的追悼との葛藤と交渉）を、発展させたものであるともいえよう。

## 3 ふたつ目の問題意識－社会的死を巡る葛藤と交渉あるいは殉職の社会学－

死には、自然科学的側面だけでなく、社会科学的側面がある。この後者の側

面を「社会的死」に関わるものとして検討し、その多様な在り方を紹介した代表的社会学者は、エスノメソドロジストのサドナウ（D. Sudnow）であろう。そして、サドナウの著作『病院でつくられる死』（1967=1992）内には、「社会的死」が「生物学的死」に先行する多くの場面が描かれていた（たとえば、死後硬直前にまぶたを閉じさせようと躍起になっている看護師や、死亡宣告前に死体解剖許可書を作成しサインを促す医師等が紹介されている）。

これに対し、「殉職者」の「追悼」がしっかりとなされている場合には、（人々の相互行為の対象とならなくなるという意味での）「社会的死」はなかなかやっつけず、「社会的死」と「生物学的死」の順番が逆になるケースが多いだろう。すなわち、生物学的死の宣告のあとも、故人にかかわる多くの社会的活動がなされ、社会的死がなかなかやっつけこない場合があることが予想された。そして、そういう「特徴」を、「殉職」の「追悼」が持っていると考えた時、親族や家族にとっての「社会的死」の適切なタイミングや適切な行われ方と、追悼する団体や組織（故人の職業や地位に関わる団体や組織）にとっての「社会的死」の適切なタイミングや適切な行われ方がずれてしまう、という問題状況も「殉職の追悼」に特有の状況として発生すると考えられた。そういう「齟齬」があるのかどうなのか。あったとして、それはどのような葛藤を呼び起こすのか。どのような（殉職者家族による）対処行動を呼び起こすのか。あるいは、（殉職者追悼団体・組織側による）行動の修正を呼び起こすのか。このあたりが、今回の殉職家族インタビューにおける、ふたつ目の探究ポイントとなると予想された。

#### 4 ふたつの問題意識－死の事象別・時間推移別・関係区分別関与表の改訂－

ここまでの議論をまとめておこう。

本稿は二つの問題意識に導かれている。ひとつは、追悼の多重性とその際の追悼相互の関係を解明したいという問題意識であり、もうひとつは、「社会的死」がゆっくりと、多くの手続きを経てなされていく「殉職の追悼」という社会過程において、どのような葛藤（コンフリクト）や交渉（ネゴシエーション）が呼び起こされているのか、という問題意識である。

このふたつの問題意識は関連している。その関連性を示すのには、藤村作成の表を改訂するのが良いだろう。藤村は、その論文「文化としての追悼」の中に「表2 死を取り巻く事象と関連する人々との関係」（藤村，2008:119）を掲載し、死を取り巻く事象として、縦軸に医療、葬儀、追悼を区分して配置し、死に関連する人のあり方として、横軸に、人称別に一人称（本人・死者）と、二人称（家族・遺族）と、三人称（第三者・運営者）とを区分して配置している<sup>3)</sup>。

本資料の問題意識を見やすく表示するためには、この表の横軸の三人称の部分に、さらに区分を持ち込んで「地域」「県」「国家」を分けて表記するのが良いだろう。そうすれば追悼の多重性を表内で示すことができるようになる。

また、追悼の葛藤的側面や交渉的側面を表記するには、記号として「←数→」を用いるのが好適であるように思われた。以上のアイディアから、藤村の表を改訂すると下記のようなになる<sup>4)</sup>。

表 1 死の事象別・時間推移別・関係区分別関与表（三人称主体複数化版）

事象	関係区分				時間推移
	一人称 本人 死者	二人称 家族 遺族	三人称① 第三者 運営者 例：地域（県）	三人称② 例：（県）国	
医療	○	△			
葬儀 (殉職)	—	○ ←1→	△ ○	(△) (○)	
追悼	— — —	○ ←2→ △ ←4→ —	○ ←3→ ○ ←5→ ○	○ ○ (○)	[初期] [経過後] [歴史化]

(○=中心的主体/△=関与者) ※(藤村, 2008)の「表 2」を改訂した。

この表 1 の特徴は、三人称主体を複数化したことと、各主体間に、葛藤と交渉の実例がある場合に、それを「←数→」の形で表記したことである。この特徴ある部分についてだけ、以下、若干解説を行っておきたい。

まず、三人称主体を複数化する際に、2つに分割するか、3つに分割するか、あるいは、それ以上に分割するか、という選択肢が存在したが、交渉と葛藤が、三人称主体間でも生じうる、ということだけを表示できればよいと考え、本表では、2つに分割することとした。その結果、字レベルの地域的追悼と県レベルの公的な追悼と国家的追悼の 3 つの追悼が並列している第一インタビューケースについては、表との対応が少しわかりづらくなってしまったが、葛藤と交渉があることについては、表示として見やすくなった。

ついで、「←数→」（葛藤と交渉の表記）を表内に合計で 5 つ、掲載したが、これを順に解説していきたい。

まず、第一の葛藤と交渉の表記である「←1→」については、葬儀が 2 度行われている点が特徴的であった。第一インタビューを見ていただくとわかるように、抗争警戒中、私服でいるところを暴力団に銃撃されて殺された後、まず、家族の葬儀が執り行われ、その約 1 週間後に、県警葬（正式名称不明）が行われている。

ついで、第二の葛藤と交渉の表記である「←2→」については、毎年の追悼の行事に関しても、自宅系（墓および自宅の祭壇）で行われているものと、県警として行っているものの 2 種があり、自宅には、命日に署長が毎年訪問してきており、県警主催の沖縄県殉職警察職員慰霊祭には、第一インタビューの対象者である殉職者の妻が毎年招待されていた。つまり、この部分においては、

2つの追悼儀式間に、相互浸透の関係があるということもいえそうである。ただし、殉職者の妻は、自分が県警の慰霊祭に行くことができなくなったあとは、自分の子供たちは、慰霊祭に行かないだろう、という予想を口にしており、この相互浸透が、遺族側からの自発性に基づくものであるかどうか、という点については、疑問が残る口調になっている。この部分については、ジャーナリスティックな探求は本稿の課題ではないが、当時の警察の事件捜査のあり方に対する疑問も公表されており<sup>5)</sup>、もしかしたら、そのようなことも関係しているのかも知れない。つまり、藤村によれば、追悼において、遺族には、「死の原因の納得的理解」（藤村、2008：120）が重要であるとされており、そういう観点からみると、本事件は、本当に私服警官を、敵方暴力団員と誤認した上での射殺だったのか、という原因部分に疑義が残っている、ということもいえそうであり、その後の警察の捜査が、犯人Xの一方的供述に基づくラインで進行していたという非難もあるなど、総合的に見て、遺族にとっては、なかなか、納得しがたい状況が続いている、ということもいえそうなのであった。

第三の葛藤と交渉の表記である「←3→」については、同じく第一インタビューにおいて、地域の追悼祭として「カミウシーミー」があるということが語られており、そのような家族性を失った追悼の対象者への地域的追悼行事と、警察という永続する行政組織が実施する追悼行事の併存という事態をも、本稿は分析対象としている。ただ、この部分は、相対的に相互不干渉の状態になっているようにも思われ、インタビュー内でも、言及はわずかである。

なお、沖縄の先祖供養に関しては、筆者は、酒井（1987→2001）のほか、名嘉真（1999）から、知識を得た。そこでの「シーミー（清明祭）」に関する記載は以下のとおりである。

「清明祭はもともと中国から伝来したもので、古代中国の暦法でいうところの二十四節気の一つ清明の節におこなう祖先供養のまつりである・・・（中略）・・・清明祭にはウシーミー（御清明祭）とカミウシーミー（神御清明祭）のふたつがある。ウシーミーは一般家庭のまつりで、ごく身近な祖霊の墓、いわゆる現在使用中の墓のまつりで、カミウシーミーは一族や遠い祖先のまつられた墓、いわゆる神墓におけるまつりである。」（名嘉真、1999：78f.）

つまり、このカミウシーミーにどれほど、追悼的色彩があるのか、ということが問題になるが、今回は、十分な調査を遂行することができなかった。南風原陸軍病院壕が、どの程度ほんとうに、地域住民による追悼の対象になっているのか、という問題ともつながるテーマとして、今後の研究の課題としていきたい。

第四の葛藤と交渉の表記である「←4→」については、第二インタビューを元に考えるのが、生産的だろう。じつは、第二インタビューのインフォーマント氏は、沖縄戦で殉職なされた当事者の方の息子さんだったが、実父と同じ沖縄県警に奉職なされていた（インタビュー時には退職済）。このような場合、毎年、県警の慰霊祭の意味は、かなりのところ、実父の追悼の場としての色彩を帯びるのではないだろうか。枠組みとして、この第四の葛藤と交渉の事

例というべきだと思われた。なお、インタビュー中には気が付いていなかったが、県警の慰霊祭とは別に行われている、沖縄県の慰霊祭の日付として語られている5月15日（復帰記念日）は、おそらくは、6月23日（沖縄戦において日本軍の組織的戦闘が終結した日・現在は、県慰霊の日）の誤りと思われるが、この日は、BBB氏に取ってみれば、実父の殉職と深く結びついた日になっており、そういう面からも、個人的追悼と組織的追悼に関係がある事例ということができよう。

第五の葛藤と交渉の表記である「←5→」については、第一インタビューに基づいて考える場合は、右側に国家による追悼式典である全国殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭を置くことで、県レベルの追悼式典や地域レベルの追悼式典との葛藤と交渉を検討することができるだろう。また、第二インタビューに基づいて考える場合は、右側に、8月15日の、天皇が出席する東京での全国戦没者追悼式を置くことで、考えることができるだろう。

興味深いのは、警察職員の慰霊祭は、県レベルにおいても、ほぼ全国の慰霊祭同様、10月末から11月初旬に揃えられる形で日程設定されているのに対し、各地方の一般戦災死没者の追悼の式典の日は、日程的にばらばらなことである。徳島や高知では、両都市への大空襲の日である7月4日に式典が行われており、沖縄でも、10月10日の大空襲の日が記念式典の日になっている。この、全国と地方における、式典日付の一致と不一致から、追悼の意味に関するズレが全国と地方に存在する、という議論をしていくこともできよう。

## 5 おわりに

本稿は、「死の社会学」の部分としての、「追悼にかかわる死の社会学」という中領域のなかに、「殉職の社会学」という小領域を築きあげようとしつつ作業しているとりあえずの状況を、沖縄において採取した2つのインタビューデータを資料として示しつつ、提示したものである。ほぼすべての部分が、仮説提示のレベルのものであり、資料探索も不十分ではあるが、読者からの批判を頂いて、なんとか研究領域として作り上げていきたいと思っている。

## 注

- 1) この際の沖縄での入院生活の社会学的検討については、檜田(2011)で行った。
- 2) 朝日新聞記者・元那覇総局長の谷津憲郎の執筆したツイッター「沖縄戦」を朝日新聞デジタルが再構成した「沖縄戦再録」(<http://digital.asahi.com/articles/photo/AS20160616003982.html>)によれば、沖縄戦の戦没者において、沖縄出身の軍人・軍属の人数は2万8228人であるのに対し、県外出身兵の人数は、6万5908人となっている。
- 3) 科研費研究会でも言及されていたが、このように人称別に死の意味を区分する方法は、ヴラジミール・ジャンケレヴィッチの『死』に由来するものだという。澤井(2005:151)の解説が分かりやすい。
- 4) 藤村の表は「死を取り巻く事象と関連する人々との関係」と名付けられている。

たが、本資料では、表側と表頭の項目をそのまま表の題名に取り入れる形で新しい名付けを行った。

<sup>5)</sup> 本事件の犯人の一人であるXは、いったん警察に身柄を押しえられたあと解放され、現在まだ逃走中である。そのことに関連して、『沖縄ダークサイド』中には「警察の内部に何があったんだろうね。X（樫田による匿名化）を解放するなんて普通じゃ考えられないし、おかしいよ」（野村，2006：74）という記載がある。また、逮捕起訴され、無期刑の判決を受けたもうひとりの犯人に関しては、「殺人の“前”もあり、事件の被害者は警官二人。しかも拳銃で殺害しているんだから普通は上告するだろうけど、警察官の遺族の側やZ（共犯者。樫田による匿名化）本人にも、あらゆる面から上告しないよう説得が入ったらいい」（野村，2006：74）とも語られている。

## 文献

- 藤村正之，2008，「文化としての追悼」，副田義也編『死の社会学的研究（平成17年度～平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書』116-125。
- 樫田美雄，2008，「ある戦争遺跡にみる追悼の重層性と相互反映性-地域づくり資源・学習資源・観光資源としての陸軍病院壕-」，副田義也編『死の社会学的研究（平成17年度～平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書』146-154。  
([http://kashida-yoshio.com/kasida/ronbun/080321\\_soedakakenhoukoku.pdf](http://kashida-yoshio.com/kasida/ronbun/080321_soedakakenhoukoku.pdf) にてPDFファイルを公開中。2016年10月10日確認)
- 樫田美雄，2011，「医療の社会学」 in 藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』，弘文堂：12-27。
- 警視庁史編さん委員会，1967，『警視庁警察職員殉職者顕彰録』，警視庁。
- 名嘉真宜勝，1999，『沖縄の人生儀礼と墓』，沖縄文化社。
- 日本警察全書刊行会編，1934，『悲壮警察官殉職秘録及功労記章物語』，日本警察全書刊行会。
- 野村旗守編，2006，『沖縄ダークサイド』，宝島社。
- 岡山県警察史編さん委員会編，1971，『岡山県警察職員殉職者顕彰録』，岡山県警察本部。
- 酒井卯作，1987，『琉球列島における死霊祭祀の構造』，第一書房。  
→2001，再版発行。
- 佐藤三郎編，1933，『全国警察官殉職史』，河出書房。
- 澤井敦，2005，『死と死別の社会学-社会理論からの接近-』，青弓社。
- Sudnow. D.，1967，*Passing on: The Social Organization of Dying*，Prentice-Hall=1992 岩田啓靖・志村哲郎・山田富秋訳『病院でつくられる死-「死」と「死につつあること」の社会学』，せりか書房。

## [補記]

以下の2本のインタビュー記録は、インタビューを文字起こしし、印刷したものを、インフォーマントの両氏に郵送で照会し、訂正したものである。

## 殉職家族インタビュー記録（その1）：AAさん

沖縄調査インタビュー

インタビュー：2007年8月8日（水）

14:00-15:05

トランスクリプト化：2007年8月24日

話し手：AAccさん（AA bbさんの妻）

聞き手：徳島大学総合科学部 榎田美雄

姫路獨協大学 村中淑子

録音機材：MD&MP3

※所属はいずれも当時

榎田：あの、えっと、変な機械ですけれどもえっとこれに、あのICメモリってというのがはいついて、それで録音しているような機械です。こちらMDっていう音楽を聴く機械で録音していて、あの念のため、二つ置かせて頂いております。で、えっと今日ですね、あの：DD様のご紹介でお願いしたんですけれども、あの：従って、あの：事前にあの：お手紙をお届けすることができていないのですが、小さな字なんですけれども、簡単にお願いのですね、その：要旨を文章にしたものを持参いたしましたので、それを最初に見て頂いて、解説もさせて頂き、えっと説明のその、立ち上がりをこれに基づいてやっていこうと思いますので。あの、聞いて頂ければわかるように書いてありますので。

AA：あつ、そうですか。はい。

榎田：わたくし、自己紹介を再度させて頂きます。徳島大学という四国にあります大学で社会学という科目を担当しております、社会学の中でも福祉社会学という分野を専門にしております。で、実は、わたくしどもの、調査は文部省科学研究費というのがありまして、そこにあの：：基盤Aという、その：：なんていうんですかね、カテゴリー、基盤Aという、全国で20人くらいでグループをくんでやります、研究のチームの作りかたがあります。で、実は、金城学院大学という名古屋にあります、大学の教授をしております副田義也という人間がわたしどものチームリーダーになっておまして、副田義也、金城学院大学教授のもとに3つの班をつくって、三年越しで活動をしております。実は今年が平成19年、最終年度で、平成17、18、19と三年かけまして、え：：、死の社会学というテーマで、ずっと20人で分担して研究をしております。で、わたし自身は死の社会学の中の追悼文化という班になっております。他には、あの：：病院で研究をしている人たちとか、お葬式の研究をしているひとたちがいますけれども、わたしはあの、追悼文化ということで、今回あの：：ひき、ひ、濁るんでしょうか、

村中：AAさん・・・

榎田：AAさま、あつ、申し訳ございません、AAさまに、あのお願いしておりますのは、こちらさま、警察でですね、追悼慰霊祭というのをやっていらっしゃるっていうふうに伺ってるんですけども、そういうその公的に追悼されるっていうことと、私的にやっぱり、あの：：ご主



人でいらっしゃるんでしょうか、

AA： はい

榎田： あっ、あの：：A A B Bさまを個人的に、あるいは家族であの：：追悼といいますか、その：：え：：まあ、霊をなぐさめていらっしゃることが、どれくらい重なって、どれくらい別のもので、で：：、まあ、お亡くなりになって、平成EE年と伺っておりますから、

AA： はい

榎田： ○○（10から20の間の数字）年ほど経っておりますが、その、年月が経つにつれてですね、え：：まあ：その、警察でまとめて、その：：これあれですよ、県知事も来る、県警本部長も来るというような形で追悼をすることが、ご家族にとってどういうふう、意味を、まあだんだん大きな意味を持つということもあるかもしれませんし、もう、毎年毎年のことだからいいやっていうこともあるかもしれません。その、追悼ということについて、今回お話を伺いたいということなんですけど、けれどもですね、どのようなお亡くならの仕方をしたかということが追悼ということに関係しているかもしれない、と思いますので、その限りで今回あの、事件の概要をあの：：係長様にさきほど書類をつくって見せて頂いたのですが、概要のところからお話を聞かせていただき、最後の部分では、その今申し上げた、追悼ということが、あの：：職場でなされる、地域でなされる、あの：：え：：、ご家族でなされるということがですね、どれくらい重なって、どれくらいずれているかっていうことまで、小一時間でお話をあの：：伺いたく思っております。どうぞよろしくお願ひします。あ、あのこれ、お持ち帰りください、そのようなことが書いておまして、わたしどもの連絡先、名刺にも書いてあるんですけども、

AA： はい

榎田： 連絡先、こちらになっております。で、実は資料をその、ほんのさっき見せて頂いただけですので、あの：：平成EE年に暴力団抗争に伴う特別警戒中に、暴力団員の凶弾により、え：：お亡くなりになったと、書いてあることしか、実は、DD様からも、個人情報：：：ですので、伺っていなかったのですが、

AA： あ、はい

榎田： そのときのお話から伺ってよろしいでしょうか。

AA： はい。

榎田： お願いいたします。

AA： （無言）

榎田： あっ、ただ、あの一番言いにくいことを聞いてしまっているならば、あの：：ほかの話からはいっていきますけれども。

AA： そうですね：：その：：何ヶ月か前から抗争がありまして

榎田： はい

AA： あの：：ず：：っと、つめて仕事場にいたんですけど、その、その日は、あの：：ちょうど当番あけで、お昼前に帰ってきて、一眠りして、また夕方出かけたんです、仕事に。で、あの、当座も、暴力団は危険っちゅうのは知ってたんですけど、でも：、まさかそういう：ことになると思わずに、そのまま夕方出勤させたっていうか、風邪気味でもあったんですよ、はい、そのまま、休んだらって言ったんですけど、休むことが：：出来ない仕事ですので：：まあ：：：

- 樫田： でも、すこし心残りでいらっしやいますね：：つまり、休んだら、というふうに言ったときに、ご主人が、じゃあ今日は休もうかと言えば、凶弾にあわずに済んだ：：
- AA： そうですね：：：
- 樫田： かもしれないわけですね：：日頃は、その：：仕事ですから、あまり休んだらとかっていうふうにはおっしゃらないんじゃないでしょうか。
- AA： はい：：あの：：かなりあの：：警察の仕事を勝手に休むってことはできないというか、やってはいけないというふうに自分たちは思っただけで、まあ、風邪くらいで休むことはなかったんですけどね、でもずうっと詰めてまして、もうすごく、疲労困憊した状態でしたのでね、その時は、沖縄県警全部みなさんが、休んで欲しかったんですけど：：：もう夕方出て行ったのが最後でしたね。
- 樫田： あの：：うしろの話とつながるんですけども
- AA： はい
- 樫田： 今まで何人かですね、実はインタビューをさせて頂いてですね、やはりいろんな心残りのことをその：：六十年たってですね、おっしゃる方、五十年たっておっしゃる方、その：：いらっしやるんですけども、今のお話は、AA様の心残りのひとつというふうに伺ってよいのでしょうか。
- AA： ええ：：。そうですね：：：それもありますし、もうすこし、ずっとあの、もう働き盛りでしたので、子供達が大きくなって、これからちよっと、経済的にも楽になるかなっていうときに、あの逝ってしまったので、その点が：：：
- 樫田： おいくつで当時いらっしやったんでしょうか
- AA： 四十三でした：：：
- 樫田： あの、これも全部プライバシーなので、奥様が構わないとおっしゃる範囲で承ろうと思うのですが、お子様の大きくなったっていうのはおいくつとおいくつでいらっしやったっていう：：：
- AA： もう：：下の子が高校の三年生でしたので、ある程度：：：
- 樫田： じゃ、上のお子様はもうあの：
- AA： 成人して：：：
- 樫田： 成人してらっしゃって：：
- AA： はい
- 樫田： じゃ、ご夫婦にとっては、これからご夫婦の生活がという：：
- AA： そうですね、すこしはゆとりができるかなっていう：：：（ことを思いました）ですね：：：
- 樫田： あの：：思い出したくないことは、どうぞ嫌だと言って頂いて構わないのですが、当日連絡を奥様のほうに警察の方がいれてきたのは、何時ぐらいになられるんでしょうか。
- AA： たぶん、あの、もう日付が変わってからだと思うんです、すごい動転してて確かめなかったんですけど：：：その日は、わたしもちょっと風邪をひいて、家族全部早めに寝てしまって、親も兄弟も、あの：：テレビみてニュースで流れてるんですけど、誰も見てなかったんですよ：：で、もう警察からの電話ではじめて：：：知ったんですけど：：：
- 樫田： え、そうしますと、警察からご家族に電話がはいる前に、テレビニュ

- ースでは、AA さまのお名前も流れていたという：：
- AA： 流れていたと聞いてます。
- 樫田： いま、あの：ご連絡が、日付が変わったあたりだというお話なんですが、撃たれてしまったのは何時くらいで：：
- AA： 十一時：：過ぎです：：23 時でしたから：：
- 樫田： わたくし、昔ですね、新聞で読んだ記憶があるような気がするんですけども、これは、えっと、山口組とかの関係なんですか、別の組との：：
- AA： え：：と、つながりは無いとは言えないですけど：：あの、沖縄は山口組とその直系ではなく、ないと思います、わたしもよくは知りませんが：：
- 樫田： その：：抗争がずっと続いていて警戒中にえ：：たぶんその抗争相手同士の流れ弾かなにかにあられた、あるいは警察官を狙った、その銃撃ってということだったんでしょうか
- AA： 裁判でもそのへん、うんと争ったんですけど、相手は暴力団だと思って撃たったって言うんですけど、その前にあの：：その：：実行犯、誰か撃ったひとと、撃たれたものが、前に顔は知ってるっていうか、わたし、AABBはその：：犯人を：：：なんていうか、他の事件で担当したことがあるということで、面識があったそうです、それも随分あとで聞いた話ですけど：：あの裁判の途中はそれも知らなく：：かったですけどね：：ですから：：撃った犯人、未だにわたしはあの：：、知りながら撃ったんじゃないかなという気持ちがあります、でもほかに言ったことはないんですけど
- 樫田： えっと、記憶が違ってたら申し訳ありません、車の中にいるところを撃たれたような記憶があるんですけども：：
- AA： そうです、はい、二人、撃たれました：：
- 樫田： お亡くなりになったのはご主人だけ：：
- AA： いえ、ふたり。
- 樫田： 二人とも：：
- AA： はい
- 樫田： では、ほとんどこう、殺すつもりで撃っているということですね
- AA： そうですね、あのひと、もう一人の方は頭を撃たれてますので、あの、かなり拳銃の扱いも知ってまして、どこ、人間の殺傷の仕方も知ってる人だと思います
- 樫田： このあの、大きな事件であの、当時東京にいたんですけども、東京でもたくさん報道されて、これはね：：、報道の中でも知って撃ってたんじゃないかっていうような報道がされてましたね
- AA： あ：：そう：：
- 樫田： えっと、続けてお伺いしようと思うのはですね、その、いま裁判のお話とかもありましたので、追悼に関わりのある範囲でですね、そこも伺っていきこうと思うのですが、お亡くなりになったあとですね、え：：こういう事件はやっぱり検視、解剖ということになってしまうと思うのですが、
- AA： はい、やりました
- 樫田： そこらあたりのお話から：：：すぐにもう、警察のほうで、こういうのは自動的に解剖になるのですか、あるいはご家族の許可をとって解剖になるのですか

- AA： え：：と、ほとんど自動的に：：解剖にまわったと思っますけど：  
：：
- 榎田： そういうときにはもう、立ち会うこともできないわけですね
- AA： あ、それはないです：：
- 榎田： 終わってから：：
- AA： 終わるのを別の部屋で待ってる状態でした
- 榎田： 病院は？
- AA： 琉大：：：
- 榎田： FF大学の法医学で：：：
- AA： はい
- 榎田： そうしますと、日付が変わった頃、奥様に電話があって
- AA： はい
- 榎田： すぐに、琉大のほうに行かれたということ：：：
- AA： いえ、すぐじゃなくて、あの、撃たれたのが ZZ市のUU（沖縄のある地名）というところで、ま、そこ：：：からあの、電話があったのは：：あつと、病院のあの：：なんて名前だったかな、あのTT（沖縄の私立のある病院）に行くようにって言われて：：：
- 榎田： あ、そっか、まず、あの病院収容ですから：：
- AA： で、あの：：亡くなったのも知らなかったですけども：：：とにかくそこに行くように言われたんですけども：：：いつも、近くを通ってるんですけど、その病院が浮かばなくて、動転してしまって：：：で、YY（沖縄のある警察署）に行ったんです。
- 榎田： あ：：そうですね、行かなきゃいけないけど、どこだかも浮かばない状態で：：
- AA： はい：：：
- 榎田： そしたらパトカーで行ったということでしょうか
- AA： う：：ん、いえいえ、あの息子が運転して：：
- 榎田： あ、息子さま、YY（沖縄のある警察署）にご勤務：：
- AA： いえいえ、違います
- 榎田： では、なくて、YY（沖縄のある警察署）に行っって、場所を教えてもらっって息子様と：：：
- AA： 息子がYY（沖縄のある警察署）まで一緒に連れてってそこで、署の方の案内でTT（沖縄の私立のある病院）に：：行っって初めて：：：う：：：ん、亡くなったことがわかったんですけどね：：：
- 榎田： その最初の電話では、では、撃たれたという話もなくってとにかく、TT（沖縄の私立のある病院）へ、というお話：：：
- AA： ええ、そうでした、はい
- 榎田： それでも、気が動転するっていうのは、これは大変なことだろうという予想はなさっていらっしやっただけ：：：
- AA： ええ、でも：：その前にも一度、怪我したことがあって、呼び出しがあったことがありましたので、ま、それくらいかな、とは思ったんですけど、それでもう：：どうしてももう：：その病院が浮かばなかったですね、いつも見てる病院なんですけど：：：
- 榎田： これは、えっと ZZ市のそばにある、わたくし土地勘がなくって申し訳ありません、
- AA： はい、そうです
- 榎田： そばにあるTT（沖縄の私立のある病院）：：：

- AA： あの：：事件現場の近くにありますが
- 榎田： そうしますと、えっと、解剖に入る前に一度は、あの、お顔をご覧になってらっしゃるわけですね：：
- AA： はい。そこから、あのFF大学の病院に搬送して、それから解剖に入ってます：：
- 榎田： ああいうのは何時間くらいかかるんでしょうか
- AA： 結構かかりましたです：：：さだかではないんですけど、なんかずいぶん待ったように思いますけど、三、四時間くらい：：
- 榎田： それは、真夜中ですよ
- AA： いえ、もう、翌朝です、夜があけてから：：
- 榎田： お休みになる気には、当然ならないですよ
- AA： そうですよ：：
- 榎田： あの：病院には、じゃあ、控え室が準備されていてそこでずっとお待ちになって：：
- AA： はい
- 榎田： ご親戚へのご連絡とかじゃあ、まあ、そのころにおやりになったという感じなんですか
- AA： あの、自分で、自分の家の電話番号も忘れるほど：：：でしたので、あの：自分で連絡することはできませんでしたが：：：あの、誰か連絡してくれたのだと思います、あの：テレビのニュースみて、とか：：で、TT（沖縄の私立のある病院）にけっこうあの、兄弟も親も来ていましたので：：：主人の親も：：
- 榎田： それは、では警察のほうから奥様ではなくって直接：：：旦那様のご両親のほうに連絡があったってということなんですか
- AA： それは、聞いてないですね、どこから連絡があったか、まだ：：確認してないですけど：：
- 榎田： ありがとうございます、話が少し飛ぶんですけども、えっと、殉職はお葬式自体が公に行われるんでしょうか、ご家族のお葬式があった後、式典があるってことなんですか
- AA： そうですね、あの：：：公のは：わかんなかったんです、あることも：：やってくれるのも：：：知りませんでしたので：：
- 榎田： はい
- AA： まあ、個人で：：
- 榎田： ご家族のお葬式を、では、えっと翌日、翌々日あたりに、お通夜お葬式と、終わって：：
- AA： 終わって、一週間くらいたって、たたないかな、その辺がちょっと日付がわかんないですけど、公の式典を：：してもらったんですけど：：
- 榎田： 調べて来てないんですけども、それは、えっと：：よくほら、あの：：県警葬とか、こう名前がつかますよね、こちらさまもそういうお名前で、県警葬っていう：：：お名前で：：
- AA： そう、そう、はい、その日付を調べてくれたらよかったです：：ちょっと、すいません：：
- 榎田： ひとつきくらい経ってから？
- AA： いえ、そんなに経ってないです、
- 榎田： 一週間くらいで？
- AA： 二週間くらい経ってたと思いますね

- 樫田： あの：どれもプライバシーなのであれなんですけども、ご宗教はですね、どういふご宗教で：：：
- AA： かまいません：：沖縄はですね、特別にあの：仏教なら仏教っていうもんがある、あることにはある、今はあるんですけど、でもそのときは、どのお寺でもどの宗教に、どこの檀家にはいるっていうのが、今ほど普及していない。自分が知らなかったのかもしれませんが。ですから、もう仏教：：：に準じて、葬式はしましたけど：：
- 樫田： もとから、あの：：こちらさまのお寺にっていうことはなく：：
- AA： ない、ないです
- 樫田： そのときに、まあ、あのお坊さんと呼んで、っていう：：
- AA： はい：：：：未だに沖縄はその：：ここの家はここの檀家っていうのはないです：：
- 樫田： そうしますと、こう変な言い方ですけど、お葬式の時だけのお付き合いのお坊さんがいらっしゃるっていうこと：：
- AA： そうですね、まあ、お葬式して、法事もあとそこのお寺でお願いするって感じで：：べつに、あの：特定するってことはまだないですね：：なかには、あのそういう方もいらっしゃると思うんですけども、自分の身の近くでは、そういう方はまだ：：いないです
- 樫田： あのお墓っていうのはどうなっているんでしょうか
- AA： えっと沖縄のお墓はちょっと特別でして：：
- 樫田： こういふ大きな：：こう、よく見ますけど
- AA： そうですね：あの：：：亀の甲羅をふせた形に外見は作って、お墓の中は階段のような何段かがありまして、お骨を：：そこへ納骨するのです
- 樫田： 調べてくればいいことを調べずに伺うのですが、置いておいたものを何年間か経ったら、あの：：中にいれるとか、そういう儀式はあるんでしょうか
- AA： えっと：そのまま、あの：火葬してつぼに入れてそれをお墓に収めますので、それをあの：滅多にこぼしたりっていうことはしないです、あの特別に、えっと南部のほうに行きますと、ムンチューといってその：子孫何代もの墓を合同にして、その門中墓というのもありまして、そういうところでしたら、たくさんひとがひとつの墓にはいるもんですから、古いのは、あの、奥の方に骨壺から、そのお骨をこぼしてしまつて山積みにするっていうことはきいてますけど：：
- 樫田： はい、はい。
- AA： まあ、あのわたしのところでは、まだそういったことはなくて、個人の墓：その家だけの墓：
- 樫田： はい、あの、実は土地勘がないのですが、VV（沖縄のある市）に今お住まいでらっしゃいますけれども、お亡くなりになったときにも、VV（沖縄のある市）からお通いになってらっしゃったのでしょうか。
- AA： はい、そうです
- 樫田： そしていま、南のほうでは、とおっしゃってAAさまは違うっていうのは、そのVV（沖縄のある市）っていうのが北のほうにあるって思っているのでしょうか
- AA： ちょっと、若干南部よりですね、どちらかといいますと：真ん中に：
- 樫田： この地図でいうとどちらあたりになられるんでしょうか
- AA： VV（沖縄のある市）は：：：あの：：こっちはだいたい、この辺は

- 南部っていうんです、もうVV（沖縄のある市）はそこなんですけども：：
- 樫田： あ、VV（沖縄のある市）と書いてありますけども、ここらへんは、その個人のお墓が普通：：
- AA： そうですね、あ、またここと奥の方でもやっぱりあの、ムンチューって言ってその：：子孫代々の大きなお墓にひとつにいれるっていう風習があるみたいなんですけども、この真ん中周辺では、だいたいが個人の：：でも最近、あの：：そういうムンチューの墓があってもあの：：個人でっていうのが増えつつあるみたいですよ：：
- 樫田： 昔のその、大きなお墓は、大きな門中墓としてお参りして、自分たちは自分たちで小さなお墓を立ててっていう：：
- AA： はい
- 樫田： ふたつあって大変ですね
- AA： そうですね、あの、ここでも全然ないのかっていうと、そうでもないです、VV（沖縄のある市）でもそのムンチューって言って昔から何代か続いたご先祖の墓：：まとまった墓はあるんですけど、それはそれで別で、また個人でお墓を作るのが普通になって：：
- 樫田： お墓についてですね、もう少し伺おうと思うんですが、いま、もう個人でっておっしゃった以上、これは旦那様個人でお名前が書いてある：：：
- AA： そうです
- 樫田： あつまり、AAさまご一家のお墓ではなく、
- AA： いえ
- 樫田： AA b bさまのお墓っていうことで：：：
- AA： 今はですけど、いずれはそこに、もう：：：わたし：：沖縄の風習では、だいたい長男：：は、その親と一緒にというのがありまして、親が亡くなると、AA b bは長男でしたのでたぶん一緒にはいって、AA家の墓になると思います。一人の墓じゃなくって、親も入る：：：
- 樫田： えっと、AAさまのご両親はまだ、ご存命でいらっしゃるわけですね
- AA： はい、まだ元気です
- 樫田： b bさまのご両親が
- AA： はい
- 樫田： そうすると、b bさまのご両親のさらにご両親のはいってらっしゃるお墓は、ムンチュー形式なんのでしょうか、あるいは個人のお墓なんのでしょうか
- AA： まだ個人ですね、そこからは、はい
- 樫田： あ：：
- AA： その前、かなり前、三代くらい前から：：前が、ムンチューになっていると思います：：
- 樫田： もう沖縄のこと知らないんですけど、奥様はまだお元気でもちろんいらっしゃるんですけども、そこのお墓は奥様にも関係したお墓とっていいのでしょうか。奥さまはまた別のお墓が関係するっていうことなんのでしょうか
- AA： たぶん主人と一緒にのお墓に入るんだと思います
- 樫田： あの：えっと、AA b bさま、AA b bさまのご両親、AACC（AAさんの妻）さま、お子様もはいつてくるということなんのでしょうか
- AA： え：わたしの、要するに長男だけはそこに入るということになります

- ：
- 榎田： あ：， はい， b b さまのご長男。
- AA： 長男だけが， 入ってく：：そういう形式のやり方を沖縄ではほとんどしてみたいですね：：
- 榎田： つかぬことを伺いますが， そうすると， A A b b さまのご両親のさらにご両親のお墓はいまどうなってるんでしょうか
- AA： は：：：別につくってあります。
- 榎田： そこにはお参りには行かれるっていうことはあるんでしょうか
- 榎田： え， あります。
- 榎田： そうすると大変ですね， あのお墓が：：ここにも：：
- AA： そうですね， いくつもあって：：
- 榎田： で， c c (AA さんの妻の名の部分) さまのご両親も：
- AA： おりますね：：. やっぱり：：：
- 榎田： そうするとご存命中で。
- AA： いえいえ， やっぱりお墓があります。
- 榎田： じゃ， お参りしなきゃいけないところが三カ所：
- AA： あ， はい
- 榎田： そういう話をその：：中心に伺おうと思うんですけども， お墓に行かれる期日っていうのはですね， 沖縄ではいつぐらい， いつぐらい， いつぐらいっていう感じなんでしょうか
- AA： あの沖縄でですね， あの：シーミーっていいまして， あれは：四月， 四月に精霊祭があるんです， その時とお盆のまえ， 旧暦ですけど， お盆の七月七日の七夕にお墓の掃除をして， そのお盆にお家にご帰ってらっしゃいっていうふうに， 行くんです。それが主で， あの：最初に亡くなった， なんていうんですかね， 今年亡くなって次に来る旧暦の1月16日もお墓に行きます
- 榎田： 十月十六日？
- AA： 旧暦の1月16日
- 榎田： いちがつ， 十六日， はい。
- AA： 一月十六日で， お墓に行くみたいです， そこ， それは本島だけで， また先島に行くとまたちょっと違う， 離島に行くと違うっていうのがあるんです， 沖縄本島と：：
- 榎田： 十六日は， なにか呼び名があるんですよね， さっき四月はシーミーというふうにおっしゃいましたけど， 一月はなにか：：
- AA： はい， あの， 十六日と言います：：これは旧暦の一月十六日：：
- 榎田： ということは二月っていうことですかね
- AA： そうですね， 二月です：：：で， 先島は（沖縄のある地方 A）とかそれから（沖縄のある地方 B）とか， でしたら， 亡くなって最初の1月16日だけじゃなくて毎年， このシーミーには行かないで， 十六日にするすこしずつ違う：：ようです。
- 榎田： 先島のことに詳しくていらっしゃるようなのですが， ご親戚筋で先島にお住まいの方もいらっしゃるということ：：：なんでしょうか。
- AA： はい， あの， わたしが（沖縄のある地方 A）の出身なものですから：
- ：
- 榎田： そうすると（沖縄のある地方 A）の習慣と J J（沖縄のある市）：：ご主人はもとから J J（沖縄のある市）でいらっしゃるんですか
- AA： J J（沖縄のある市）です， はい



- 榎田： J J（沖縄のある市）の習慣と両方がわかってらっしゃるわけですね  
AA： そのつもりですけど：：あの：わかってないところもあるかもしれませんけど：：  
榎田： だんだんあの、お伺いしたいところに近づいてきたんですけれども、こちらさまはですね、あの：：慰霊祭がなんか、二年に一回とか：：  
AA： いえ、毎年：：  
榎田： まだ、毎年やってるんですね、ごめんなさい、まだ、毎年やって：：  
：で、えっと日付がですね、秋だというふうに伺ったんですけど：：  
：  
AA： そうですね、11月くらい：：  
榎田： これはなにか由来があるんでしょうか  
AA： え：：その辺はちょっと聞いてないですけど、だいたい秋にはいつからですね、十月の末から十一月の初め頃です  
榎田： それはご案内がいつも警務課から AA さまのほうにきて：：：  
AA： はい  
榎田： 出席確認つきなんですか  
AA： です、はい  
榎田： それは：：あの：：えっと本当は来ればいいんですけども、どんな感じで式が行われるのか、こう、え：：お集まりの方々の人数とその：席の配置ぐらいから教えて頂けるとうれしいんですけども  
AA： はい、人数はちょっと：：：もう：：わからないですけど、各所の署長、本部の警務課、警察学校の方々だと思います、若い警察官の方がいっぱいいますから：：：そこと、それから警察のOBの方とか、まあ：：：前に亡くなった警察官の家族の方とか：：：人数はわかりません  
榎田： どこ：：あそこの慰霊碑のところ：：：  
AA： 波の上の〔注：おそらくは、波の上ビーチのある、那覇市の旭ヶ丘公園内の殉職警察職員慰霊之碑のこと〕  
榎田：（なみ）の上のあそこのところで：  
AA： はい  
榎田： みんな集まって、テントか何かを建ててって感じなんですか  
AA： そうですね、テントの中に入ってます。で、あの：：：音楽も、  
榎田： あー、そうかそうか、音楽隊も：  
AA： 警察の音楽隊が：：：  
榎田： 一応、式次第をですね、貰ったんですけれども、式次第には県知事、県警本部長その他全部書いてあるんですが、あれは代読ではなくて、本人が来るんでしょうか  
AA： たまに、県知事は代読のほうが多いかなと思います。  
榎田： でも本部長は当然来て：：  
AA： もう、はい。  
榎田： その：：毎年のことだと、一個一個覚えてらっしゃらないかと思いますが、そこでのこう、例えばですね、ああ、こういう言葉をかけてくれてありがたいと思ったとかですね、そういう思い出を教えていただきたいんですけども、あの：：形式張っていて嫌だなあとか、いろんな感想があるかと思いますが、  
AA： あの：：それもありますけど、でもあの：：なん：：：やっぱりOB：：警察のOBの方が、必ず声をかけてくださる：：：そういうのがあ

りますので：：それだけは、また忘れることなくあの：わざわざ気を遣って貰ってるなということは感じます

樫田： 今回、えっと〇〇年目になられるかと思いますが、これはあの、三十年で切るとかそういうことなく、ご家族がご存命の限り、声をかけてるということなのでしょう

AA： たぶんそうだと思います、あのみなさん、出席してらっしゃる方達も、かなり歳いった方もいらっしゃいますので、ずっと声をかけてらっしゃったと思います

<ノック音>

樫田： お世話になります、

<人が入ってくる気配>

樫田： 今日はお世話になります、徳島大学の樫田と申します。すいません、あの、一人目のAAさまにまだお話を伺っておりますので、しばらくそこで待っていていただけでしょうか、申し訳ありません。

男性： あ、そうですか、はい。

樫田： 続きを伺わせて頂いてよろしいでしょうか、ごめんなさい。

AA： あ、はい。

樫田： あの、もしですね、ご面識をおありじゃないですか、

AA： ええ

樫田： ないですか

AA： はい、

男性： はい

樫田： あの、〇〇年（殉職の年）にあのご主人をあの：お亡くしになって、AAさま・・・

男性： あ、はいはいはいはい、あ、

AA： AA b b の：：：

男性： あ、もう慰霊祭では：：よう：：あの：（ ）：：：

AA： あ：：すいません、ほんとに：：失礼いたします

樫田： すこし、あの話を今まだきいてる最中ですので：申し訳ありません

男性： はい、いえいえ、あの：：

AA： 失礼します

樫田： いま、お名前がわかったということは慰霊祭のときにやっぱりお名前がでるってということですか、読み上げられるとかですね：：そういうことが：：

AA： はい、あの：：えっといっつも、お名前の、名前をかかれた名簿を頂きますので

樫田： えっとそれは今日ここにお集まりになった方の名簿でしょうか、あるいはえっと、お亡くなりになった方全部で二百何十人っているっていうふうに：：：

AA： あ、いえいえ、えっと二十何名かの、名前：：：名前が書かれてました：

樫田： えっと、こちらさまに頂いた資料だと、戦後お亡くなりになった方が全部で、えっと、戦後なくなった方が、二十四名というふうに伺っていますが、こちらさまの名簿だと思ってよろしんでしょうか

AA： あ、そうです、はい。前はあの、その個人情報が出る前は名前が書かれていて：：去年、去年、一昨年くらいから、これ、こういう形にな

っています。

榎田： あー、二十四柱、としか言わない：：

AA： はい

榎田： もう、だってそんなの前もって公表していたら、今更隠してもしようがないと思うんですけど、今はもうお名前出さないんですか、資料として

AA： そうですかね、二年ほど前から：：

榎田： あの、何度も言いますが、もし言いにくいことがあったら控えますので、あれなんです、ご公務中にですね、お亡くなりになると、ご叙勲とかですね、そういうお話もあるかと思いますが、そういうときにはご自宅のほうに、あの警務課の方がいらっしゃって、手続きを進めるとかそういう感じなのでしょう。

AA： 全部、県警のそちらでやっていただいて、わたしたちはなにも：：：あの：：煩わすことなく、全部、やってもらいました：：

榎田： あの：：：話が前後しますが、年に一回のですね、この秋の慰霊祭以外に、警務課さまとですね、AAさまのご家族とのこう、お付き合いの形として、他にはどんな形のものがあるのでしょうか。

AA： あの：：：亡くなったときに、勤務していた署長が今でも毎年ずっと命日にはお見えになるんです

榎田： もうご退職になってらっしゃるお歳ですよ

AA： はい

榎田： OBとして、これはあの、ご家族のお墓のほうにいらっしゃることなんでしょうか

AA： いえ、自宅に：：

榎田： ご自宅のほうに：：：あの：：ご命日に、あの慰霊碑のところでは何か行われるっていうことは無い：：：んのでしょうか、（秋の日付）といったらいいのでしょうか：：

AA： いえ、命日には、無いです

榎田： では、ご自宅に普通にいらっしゃって

AA： はい

榎田： ご命日にご家族が、ご家族のお墓にお出向きになるということはおありなんでしょうか

AA： あ、それはやります。わたしはやりますけど

榎田： そうしますと、署長さまが訪ねてくるのは、ご家族がお墓に行く前に：：：だいたい来てっていうことなんでしょうか

AA： あ：：：：お墓に行くのは、早めに：：

榎田： あ、お墓のほうに先に行かれて、お戻りになって、署長さまが、元署長さまがお訪ねになってという：：

AA： はい、必ずお見えになられます、それは毎年です。一度も欠かされたことはない：：：一度だけ：：ありましたか：：あの：：なにか、病院に入院してらしたことがありまして、それ以外はずうっと毎年：：

榎田： お名前とか、お歳とかって何ってもよろしいのでしょうか、ご署長さま今、お名前は：：

AA： はい、歳はいま、存知あげませんが、MMMM様

榎田： えっと、署長と申しますと、このときですから、えっとFF署：：

AA： そうです、FF署の署長です

榎田： で、その、気持ちの話なので、あの：：これも、こうお答えなりにく

いところがあればあれなんですけども、こう：：ご公務でですね、お亡くなりになって、こう、ご家族としてはまだ、43歳、働き盛りですね、ご主人を亡くすとやはりこう、すこしこう、納得しがたいとかですね、受け入れにくいとかですね、そういうお気持ちもあったかと思うんですが、え：：ま：、当時、どういうお気持ちだったか、その後どういうお気持ちだったかっていうようなことを、順々にもし教えていただけたら、たいへん勉強になるんですけれども：：

AA： その時は：：考え：：：そういうことがあるってことを考えたことがなかったですの：：：：随分かかりました、五、六年：：：五、六年引きずったと思います、それを自分自身が受け入れるってことに：：：それまで、あの：家族で話をするっていうことはなかったですね、ていうか避けてたような：：

榎田： 五、六年間は、ご主人のことをあんまり家族の話題になさらない：：

AA： あんまりやらなかったですね：：

榎田： それでも、毎年、ご命日には行かれて、えっとさっきの一月の十六日とか、あるいは四月のシーミーには行かれる：：

AA： あ、はい、シーミーには行きます：：そういう時にはお墓で話はしますけど：：子供達と、父親について話をするってことはあんまりなかったですね：：

榎田： お子様はその時、高三でいらっしゃいますから、

AA： はい、もう

榎田： お家をお出になったという感じなんでしょうか

AA： いえ、そうでもないですけど：：

榎田： いらっしゃってもあんまりお話は：：

AA： はい：

榎田： あの：：お歳として、奥様のお歳はその時、おいくつでいらっしゃったんでしょうか

AA： 四十二です

榎田： まだまだ、お若くていらっしゃって

AA： え、中途半端な歳でした：

榎田： もう、奥様、お仕事は：：

AA： え、しておりました

榎田： ということは、過去形で、最近おやめになったという感じなんでしょうか

AA： 今もしてますけど、その時にしていた仕事とは全く別の仕事：：

榎田： そうすると、仕事に行っているときは、仕事のこと集中するという感じで：

AA： そうですね、はい：：それで随分助かった部分もあると思いますけど：：自分のなかで：：

榎田： わたくしどもですね、追悼班といってもですね、この葬儀班との区別があんまりいつもついていないというのが、あの：：内部で研究をされていてわかったんですけれども、こう、従って話が半分その、葬儀班とかとこう近づいてくるんですが、お父様といいますか、ご主人様ですね、日々あの思い出させる、あの：なにか、こう習慣とか手続きとか、そういうものはお持ちなんでしょうか、あるいはとくにそういうものは無いってようなことでしょうか。えっと、本土だけかもしれないですけど、仏壇があってですね、朝お参りするとかしない

- か、いろんな習慣があるかと思うんですけども。
- AA： それは、あります。あの：：えーと、家庭の中の真ん中に仏壇がありますので、一日中思い出さないっていう日は無いと思います。
- 榎田： なんの習慣も知らないんですけども、その：：なんかこう、公式的なですね、本土の仏教のひとたちに言わせると、そのなんか、三十三年くらい経つとですね、もう、その仏様になってしまったから個別にお祈りすることはしなくてよくなって、まあ、ご先祖さまの仲間入りをするみたいなことを、こう：：聞かされることもあるんですけども：：こちらさまでは：：：
- AA： あ、あります、それは。はい。三十三年己で終わりです
- 榎田： じゃ、三十三年までは、個別のまだb bさまとして：：さきほどおっしゃっていたシーミーという行事のときは：：：
- AA： あ、それはもう、関係なくずっと：：：
- 榎田： 三十三年関係なく、習慣としてずっと：：：
- AA： やります。
- 榎田： あの：：こないだ、あの：：対馬丸のご遺族の方に会ってきてですね、お話を聞いたんですけども、まあ、小さな子たちだったので、あの：：かわいそうだったけれども、その対馬丸記念館って、あの：：側に、慰霊祭の側にありますけども、あそこには、だから子供達が帰ってくる場所をつくったんだという話を伺ったんですが、お家の仏壇っていうのはですね、そのご主人が帰ってくる場所っていうふうに、こう：：思っけてらっしゃるっていう面はあるんでしょうか
- AA： ええ、自分では、その認識しています。そう思ってますけど
- 榎田： そうしますと、ご自宅は移ってらっしゃらない：：：
- AA： はい、そのままです
- 榎田： ご自宅のご仏壇には、あの：：位牌とかつてのはあるんでしょうか
- AA： あります：：家具もほとんど変えてません、そのままです：：：
- 榎田： カ、家具も変えていない？
- AA： あ、あのなんていうんですか、使ってたっていうか、あの：：主人がいるときのままです
- 榎田： あ、お部屋のほうが
- AA： お部屋っていうのも、まあ、応接間くらいですけど、そのまんまです
- 榎田： いったりきたりして申し訳ないんですけども、えっと慰霊祭についてですね、もう一度順番にお伺いしようと思うんですが、えっとお亡くなりになった最初の慰霊祭といいますと、翌年の〇〇年（殉職翌年）の慰霊祭になるかと思うんですが、〇〇年（殉職の年）の慰霊祭が間に合ってるんでしょうか
- AA： あ、そうです、そうです
- 榎田： その時にはなにか特別のやっばりご行事があるんでしょうか
- AA： はい、刻銘式っていうんでしょうかね、あの：：碑に名前を書く：：：
- 榎田： 刻み入れる：：：
- AA： あ、はい：：慰霊祭も：：そのときは遅かったのかな、その年だって記憶してますけど、でも定かではないです、その年はたぶん遅くって、亡くなった年に慰霊祭：：：だったのかな：：：ちょっと、わかりませんが：：：そのように自分には感じてましたけど：：：
- 榎田： その時には、ご家族の方のスピーチとかそういうこともあるんでしょうか

- AA : スピーチはないです  
 榎田 : じゃあ、えっと  
 AA : 献花だけ  
 榎田 : 献花だけで : :  
 AA : はい  
 榎田 : ここにあるものにはですね、その、食事の会とかがついていないんですけども、そういうのは : : :  
 AA : それはないです  
 榎田 : そういうのはないんですか、この公の行事には  
 AA : はい.  
 榎田 : そうしますと、ご家族はそのあとはどうなさるのでしょうか。これが終わられたあとは : :  
 AA : わたしの、みなさんはどうかわかりませんが、わたしはあの : 千葉からわざわざ、その時に前後して亡くなった方の奥さんがお見えになるので  
 榎田 : はい  
 AA : 一緒にお食事をして、そしてその方を送って、飛行機、飛行場まで送っていくっていうのをね、最近はしておりますけど  
 榎田 : 例のあの : : お二方同時にお亡くなりになったもうひとかたの奥さまは千葉にご在住 : : :  
 AA : 二人じゃなくってもうひとりあの : : :  
 榎田 : もうひとり?  
 AA : 事務官のかたが亡くなったんです、過労で : : で、その方の奥さんが千葉にいらっしゃるもんですから : : 最初は警察のほうで、あの : : 送り迎えをしたりしてらしたみたいですが、最近はわたしたちでするようにしてますね : :  
 榎田 : えっと、CC (AA さんの妻の名の部分) さまが車が運転がおできになるので、というお話ですね : :  
 AA : はい  
 榎田 : さきほどですね、その : : 列席の方々の順番にこう、どんな方々がいらっしゃるかを聞いたんですけども、ほかのその、ご列席者との交流というのは、今教えていただいた千葉の方くらいということなんでしょうか、こう、歴代の、こう : : :  
 AA : そうですね、  
 榎田 : 全部で、戦前からいれると二百数十柱 : : : の : : :  
 AA : あ : : その : : もうおひとり、そのわたしたち : 主人のあとに亡くなった方がいらして、いらっしゃるの、四名でだいたいお食事をしたり、しますけど : : : 毎年ではないですね、四名一緒に食事に行くってことは : : :  
 榎田 : 今後のことについてお伺いしようと思うんですけども、ま、ご家族のご追悼のその未来とあの : : 公的な慰霊祭のほうの未来について、両方あの、お伺いしようと思うんですが、ご家族のほうは、今ほどのお話ですと、ま、三十三年までは普通にやって、それ以外にシーミーについてずっと続けていくという : : :  
 AA : あ : : それはもう、沖縄全部 : : ほとんどそうしますので、ずっとすると思います  
 榎田 : そこをこう、えっとシーミーにお集まりになるかたっていうのは、ど

- れくらの範囲の方なんでしょうか
- AA： 兄弟：：甥っ子，姪っ子：：三親等から四親等ぐらいまでですかね：  
：：
- 樫田： そのときには，その三親等か四親等の方の分それぞれに，お亡くなりになった方がいらっしゃいますよね，
- AA： はい
- 樫田： それをこう，まとめて，お送りするっていう行事になるんでしょうか
- AA： まとめて：：でもその方，ほとんど自分の親もいますし，もう四親等ぐらいからはそれぞれの親もいますから，それぞれのお墓もありますけど：：：：何カ所かまわるようです
- 樫田： なるほど，そうですね，お墓も複数あります：：：
- AA： 複数ありますのでね：：：
- 樫田： さきほどあの：慣習がかわってきてですね，お墓があ：：みんなまとめたお墓から，個別のそれぞれのお名前がはっきり書いてあるようなお墓にかわってきたっていうお話でしたが，そういう変化がですね，今後また続いていくって思っているんでしょうか：：その：：
- AA： わたしはそう思いますけど：：
- 樫田： とすると，こう，いまほどシーミーのお集まりの広い範囲でのですね，お集まりの成りようもですね，難しくなっていくのかなあと思って聞いていたんですけども
- AA： そうですね：：でも，あの：：割とそのへんは沖縄の若い子たちでも，シーミーというみんなまだ来ますので，そういった面も：：まだ：：なんていうんですかね：：：まだ，クールではないのかなあ，そういう，どういう表現したらいいのか：：：ありますけど，あの，ころがあったかいかのなあってのがありますけど：：
- 樫田： 知らずに聞くんですけども，地域でなにかこうやるってことはなくて，もうこのシーミーのときも，一応，血縁といいますかご親族でお集まりになって，地域のなにか追悼祭みたいなものがあるわけではないわけなんですね，
- AA： ないです。
- 樫田： ご家族があって，あとにご殉職ならば，公的な慰霊祭があるって感じ：：：
- AA： はい。あ，地域でないことない：：：すいません：：：記憶違いで：：あると思います。区とか，そういったところでお参りするのがあるんです，カミウシーミーっていうんですけど，どういうふうになってるかちょっとわかんないですけど
- 樫田： カーニューシー：：：
- AA： カミ：：要するに神様のカミで：：その地域の最初のご先祖かなにか，ちょっと，聞いたことはないですけど：：それが終わって，それからムンチューって言って，もう，この親族の上の方やって，それから個人のシーミーって言って三回ほどやるみたいです。シーミーを：：：
- 樫田： シーミーの季節に，日付をずらして，三回あるっていうことですね
- AA： ずらして，はい。
- 樫田： シーミーっていうのは別に四月三日のことじゃないわけですね
- AA： ええ，そうじゃない：：あの：：なんていうだろ，ウシミーってよく年寄りの方はおっしゃいますけど：：：清明祭のことです，中国：：から：：：伝わった

- 榎田：あとで調べておきます。いや、あのたいへん貴重なお話を：：つまり、あの：：家族と職場だけではなくてやっぱりこう、地域っていうまとも日本のご他のところでも時々伺いますので、それはあの、あの聞いておこうと思うんですが、さきほどえっと、シーミーについては三十三年関係ないっておっしゃって、そのムンチューはまあ、もう：：
- AA：何世代か前のご先祖の：：：
- 榎田：の話ですよね、で、カミシーミーになるともつともう神様：：だということ：：：
- AA：もっと前：：その区域のたぶん、初代かそこを建てたひとなのか、そのへんの聞いたことまだないんですけど、（ ）（沖縄のある地方A）では無かったです。（沖縄のある地方A）ではまたシーミーはやりません。
- 榎田：代わりのなにかがある：：
- AA：十六日にやるんです
- 榎田：あああああああ
- AA：で、沖縄本島は、だいたいこのシーミーを三回、カミシーミー、ムンチューシーミー、そして個人のシーミーっていうのを三通りやるみたいですよ
- 榎田：もうしばらく教えて頂きたいんですが、これはあの、宗教的には誰かがきてお参りを取り仕切ることあるんでしょうか
- AA：いえ、その：：
- 榎田：このカミシーミー、ムンチューシーミー：：はい
- AA：なんていうか、親族でだいたいするんです。
- 榎田：親族だけで。
- AA：はい
- 榎田：そのときに読み上げるお経みたいなものがあるとかそういうことは：：
- AA：ないと思います。ま、（お坊さん）がいらして読んであげるってわけじゃないんですけど、そういったことは言うと思うんですけど、どういったふうに言うのかわたしにはちょっとわかりません
- 榎田：それは読むのではなくて、なにか記憶でこう、呪文みたいな事を：：
- AA：そうです、はい、年配の方が代表して供えものをして、それから：：
- 榎田：このときに、これはあのさっき聞いたご自宅にですね、ご位牌があることと、その関係して何うんですけれども、お亡くなりになった方のなにかこう魂みたいなものですね、やってくるっていうような行事なんですか、それともそういったことと関係なくお参りしてる行事なんですか。
- AA：その、あのカミシーミーとか、ムンチューシーミーとかっていうのは、もう、自分の近いひとが戻ってくるわけではない、まったく別の考えでやりますけど：：：あの：：個人のシーミーっていうのはもう、ほんとに自分に近い遺族の：：：ですの：：：帰ってくるっていうか、お墓に：：お墓にいつてやるんです、シーミーはだいたい、お家ではなくて：：お墓にあの魂があるって信じて、それを、個人のシーミーはやってると思います、自分はそう思ってますけど：：



- 榎田： ご自宅のご位牌にお参りするときにはまあ、そこで語りかけるけれども、お墓にいけばお墓の方に魂がいらっしゃると思ってお参りをなさるといふ：：：
- AA： そうですね、はい。
- 榎田： もうひとつのほうのほうのほうのほうのほうの、まあ、未来の予想とですね、あの：：それについてのご感想を伺って、あとはこう聞き残した点をすこしあの：：伺ってというふうに思っているんですけども、教えて頂けないでしょうか
- AA： 感想：：っていう：：うーんと：：ちょっと：：：：どう：：：：：
- 榎田： ま、例えば、お元気でいらっしゃる限りは、あの：：ずっと行き続けられるつもりでいらっしゃるのでしょうか
- AA： え：：：：い、い、行かなければいけないかと思ってます。
- 榎田： それは、その：：そこに行くとしたら、こう、まあ、気持ちが落ち着くとか、嬉しくなるとか：：思い出すとか、なんか、お気持ちのこう中身としては、どんな気持ちがあつてのことなんでしょうか、行かなければならないといふとかなり義務：：
- AA： 半分、義務みたいなのが自分には、あると思つていますが：：まあ：：：それぐらひは生きてるものの義務かなと自分では思つてます：：
- 榎田： それは、すいませんが、どなたに対しての義務といふかんじなんでしょうか、あの：：
- AA： あ：：主人に対してです
- 榎田： こんなこと言うのもあれですけど、例えばですね、まあ、時々あの：：行きたくなくなったことがあるとかですね、
- AA： あります
- 榎田： そういふときにも、こう義務感でこう、行くって感じなんでしょうか
- AA： それもあります
- 榎田： はい、行き続けてはいらっしゃる：：：
- AA： はい、まだ一度も欠席したことはないです、ずっと出席してます
- 榎田： お気持ちの流れとしては、今年はいいかつていう：：ふうになるのは、なにかこうきっかけとか原因とかがあつて：：
- AA： あの：：そこらへんで：：みなさんで、献花するんですけど、その前にあの：：最初に三名で献花するもんですから、ちょっとこれつらいなと思つて、行くのよそうかと思つたこともあつたんですけど、でも：：：生きてる：：：義務として、主人がそれぐらひはしなければいけないのかなといふ考えがあつて
- 榎田： つまり、こういうことですね：：このFF署の関係の三名の方々は特別扱いをされているといふことなんでしょう
- AA： そうなんです：：あの：：献花の最初のほうに代表として献花するんですよ、それがちょっと最初きついなと思つた：：最近はそれはもう考えないようにしてますけど：：：
- 榎田： それは、説明はこう、警務課のほうからなにかあつたんでしょうか、最初にこう献花して頂くことについて：：
- AA： それはありましたけど：：：
- 榎田： ていふのはやっぱり特別、あの：：現場でつていう：：：
- AA： そうですね
- 榎田： お亡くなりになり方も：：

- AA : それもありますし：：まだ、新しいですけど：：おなじような経験してほしくないんですけど：：でも自分のなかでそれは：：代表で献花するのを苦痛で全然ないかっていうと、そうでもないところがあったかなと思います、ちょっとそれは言えませんが：：警察のかたに：：
- 榎田 : いえいえ、あの：：こういう式典をですね、やっていますと、あの：：組織のことが第一になってしましまして、ご家族のことが必ずしも最優先ではないということも聞きますので、それを三人の方でお話し合いになったりしたことはおありなんでしょうか
- AA : ええ、一緒に亡くなったもうひとり、NNNさんっていうんですけど、そのひとの奥さんとは話したことはありますけど、でも他のひとに同じ運命を：：同じようなことをさせる：：よりは、もう自分たちで我慢すればいいんじゃないの：：：というふうな：：：お話をしたことがありますけどね：：
- 榎田 : そういことなわけですね、つまり同じような大きな事件があれば、次に新しく大きな事件にあわれたご家族が同じ役を：：
- AA : やらないといけないですよね：：それはつらいですし：：：あつてはならないと思ってますので：：：はい：：：自分が生きてるうち、行けるうちは行って献花しようと思ってます：
- 榎田 : これもこう、おっしゃりにくかったりしたら構わないですが、例えば奥様がですね、すこし体が悪くなられたりしたときには、ご長男にお引き継ぎになるとかそういうお気持ちはおありでしょうか
- AA : 子供達は行かないと思います
- 榎田 : それは、えっと：：奥様とやっぱり立場が違うっていうことなんでしょうか
- AA : それもありますし、あんまり公に出たくないっていうのもあると思います
- 榎田 : 一度も、ご列席なされたことは：：お子様たちはないんでしょうか、その、慰霊祭のほうですけど：
- AA : えっと、最初の年だけありました
- 榎田 : そのときはもう、ほんとに特別扱いだってことですね、ご家族のみなさんでいらっしゃるってことが、警務課からお話があつて：
- AA : (はあ)
- 榎田 : さっき聞きそびれたんですけども、えっと部長とかですね、まあ、役職者のご自宅を訪ねてきて、献花をなさるとかそういうことは最初の年はおありになったんでしょうか
- AA : え：：あの：：今でも、なんていうんですか、それ、一年、三年、七年、十三年ってあるんですけどね、(ま、本土もそうですけど)、ここは十七年はないですけど、そのたんびにみなさん、忘れずにいらして：：：お線香あげて頂いています。
- 榎田 : みなさんといいますと、幹部つれだつてって感じででしょうか、警務部長、本部長：
- AA : はい：：：まあ、あの：：何年かあの：：四、五年ずっとあの、本部長までお見えになってらっしゃいました：：：毎年：あの：：本部長が代わるたんびに、お線香頂いておりました：：
- 榎田 : それはつまり、本部長の異動ですから、べつにご命日とは関係なくい

らっしゃって：：

AA： なく：：はい

榎田： そろそろ、あの、お疲れのようですし、あの、お伺いする項目もしぼって最後のことにしていこうと思うのですが、あの：：慰霊祭の会場についてですね、こう：：ご意見とか、伺っておくのを最後にしようと思うのですが、式次第についてはさきほどまあ、こんなものかふうの感じ：：とくにご意見もないかなとも思ったんですけども、じゃあ、両方あわせて式次第、わたくしども、こう聞いているんですが、このような式次第であることについてのご意見と、会場慰霊碑および慰霊祭の会場、地図がここについて、えっと：：にご意見を頂けたらと思います。

AA： あの、あんまりそうって考えたことないんですけど：：：まあ、ここであの：：わざわざ暑い中をやってくださるので、ありがたいと思って：：：べつに会場が：：：どうかそういう意見は、わたしのほうではないです：：：式次第も：：：

榎田： わかりました。さきほどからですね、奥様にとっての慰霊のやりかたのですね、こう、お気持ちを伺ってきたのですが、もし、その：：わかるとすれば、考えうるとすればですね、お亡くなりになったあの：：方からみてですね、慰霊とか追悼のですね、意味ってどんなものでしょうか、教えて頂けないでしょうか

AA： わたしの主人はわりと、まあ、ありがたいと受け取ってるのかなと思ってます、わたしとはちょっと違った考えを持ってましたので：：すごい名誉なことだと本人も思ってるのじゃないのかな、と：：：それがあるので、わたしは：：自分で行ける間は行こうと思っておりますけど：：：

榎田： その、今語っても仕方ないことを聞くんですが、例えば、ご退職になったあとの夢とか、ご主人はどんなふうに語ってらっしゃったのでしょうか

AA： 退職したら：：あの：：：区の区長さんになりたいと言っていました：：あの：：けっこう、その地域に：：で：密着して活動してましたので：：：

榎田： 古くからのお家柄でいらっしゃったわけなんですね

AA： そうですね、ずっとそこにいまして、青年会もそこでおわってて、ほんと、でも地域の年寄りにも、すごいかわいがってもらってましたもので：：地域の活動に：：：はげみたいということは一度聞いたことがあります：：：

<沈黙>

榎田： おおむね、あの、お伺いしようと思ったことをわたしは終えたんですけども、あの、村中のほうからあれば：：：よいでしょうか：：。そのさっきからもう、何度も聞いたことを最後、もう一回だけ聞こうと思うんですけども、奥様の理想とするですね、望ましい追悼の仕方とかですね、慰霊の仕方について、もしあの：：こんなことがあったら、夢みたいな話でも結構です、あの、最後に伺わせて頂いて終わりにしようと思うんですが：：：

AA： 個人的なのでいいんですか：：：

榎田： はい、もう公というようなことも外して頂いて、

AA： 外して：：：

- 樫田： 望ましい追悼の仕方として、考えていらっしゃることや、今お考えになったことを：
- AA： あんまり、あの：：：それとってないんですけど、ま、自分なりに、ずっと自分が生きてるうちは、忘れずに：：：あの：：：思い続けていこうと思ってます。それでいいのかなって思うことにしてますけどね、自分でま、わたしが思い続けていけば、それで：
- 樫田： ありがとうございます。勉強が足りなくて、途中、あの：
- AA： わたしも：：どうあの：説明していいのかわからないのがいっぱいありまして、ほんとにすみません、もっと、もうちょっと日付もちゃんと調べて書き留めておいてくればよかったですけど：
- 樫田： いえ、あの聞きにくいこと、お話になりにくいこともたくさんしゃべって頂いたと思っております、あの、必ずや、言って頂いたことを活かして、あの、よい研究にしていこうと思いますが、もしですね、後で思い起こされてあの話は使わないで欲しいってことがありましたら、わたくしの連絡先、ここに書いてありますとおり、今日明日明後日と沖縄にありますが、電話は繋がっておりますので、お声がけください。今日はどうもありがとうございました。
- AA： ありがとうございます。

## 殉職家族インタビュー記録（その2）：BBBさん

インタビュー：2007年8月8日（水）

15：10－17：00

トランスクリプト化：2007年10月3日

話し手：BBB ddさん（殉職者のご子息）

聞き手：徳島大学総合科学部 榎田美雄

姫路獨協大学 村中淑子

録音機材：MD&MP3

※所属はいずれも当時

榎田：あの、ご挨拶が遅くなりまして、徳島から：：：

BBB：わたし、（ ），BBB ddとゆうもんです、長男になってます。

榎田：徳島大学から来ました榎田と申します。

BBB：あ：：：そうですか。

榎田：あの：：社会学というんですけれども、福祉社会学といいまして、今回あの「死の社会学」ということで、お亡くなりになった方をどう、まあ、あのお祈りしたり、追悼したりしているかということ調べております。あの一緒に研究しております：：

村中：村中と申します。よろしくお願ひします。

BBB：もう退職してからは、名刺つくることが出来なくて：：：

榎田：いいえ、あの、こちらで資料を見させて頂いておりますので。どうぞよろしくお願ひいたします。続けてお世話になります。

BBB：はい

榎田：えっと、AAさまからですね、続けてテープが動いているんですけれども、説明をさせて頂きますと、わたくしども、一生懸命メモを取るんですが、メモが間に合わないんです。で、貴重なお話をですね、メモをその：：しもらしてですね、持って帰れないと、もったいないというふうに思っております、記憶の助けのために、メモを中心に仕事をしているんですが、録音を取らせていただけないでしょうか。いかがでしょうか。

BBB：はい。（ ）。

榎田：ありがとうございます。で、今、簡単に申し上げましたが、あの：：私共、書類を簡単に準備してきましたので、申し訳ありません、字が小さくってあの：：恐縮なんです、今回あの、殉職警察官のご家族の方にインタビューをするという、え：：：企画で、あの：：きております。で、大きな企画は、文部科学省が「科学研究費」というものを持っておりまして、まあ、たいした金額じゃないんですけども、三年間で、三年間で四千万円ほどくださって、あの：：二十人で、全国手分けをしてあの：：ご遺族の方にお話を聞いております。え：：こないだ行ったのは、さっきも名前がでました対馬丸の船長さんが、え：：：お亡くなりになった方の、ご、ご遺族じゃないですね、ご本人ですね、あの生き残られた方々、それから、あの：：青森に行って、八甲田山のですね、あの：：行軍で、雪山で死んだ方のご関係者とか、あとは、まあ、僕は行っていないんですけれども、広島、長崎、阪神大震災と、え：：二十人ほどであの：：手分けをして全国でお話を伺っております。

BBB：あ：：そうですか。

樫田：で、わたしがあの：：沖縄の担当になっておりまして、あの：：警察の方とですね、まあ、消防の方はですね、特別なこう：：まあ、殉職のなさり方、つまり自分のためじゃなくって人のために、こうお亡くなりになるというですね、あの：：：ある種、名誉の、ある種、心残りのあるあの：：お亡くなり方をしているだろうと。そうするとご遺族のですね、あの：：お気持ちもですね、納得出来る部分と納得出来ない部分と、両方があるだろうと。で、わたくしどもが関心をもっておりますのは、亡くなったあと、国家とか、県とか、県警とかがですね、追悼慰霊祭をやっております。これがこう、ご遺族の気持ちとどれくらい重なっていて、どれくらい、まあ、別のものとしてあって、あの：：お亡くなりになって五年、十年、十五年、今回の場合は昭和二十年ですから：：：

BBB：もう、六十：：二年ですか、はい。

樫田：もう、六十二年ですね、六十二年の間に：：：

BBB：うちの：：うちの場合は：：

樫田：はい

BBB：うちの父の場合は、六十二年になります。

樫田：あの、どれくらい、あのお気持ちっていうものをですね、あの：：変える力を持っているかっていうのを、是非とも聞いて帰りたいと思っておりますので。どう：：大丈夫でしょうか、あの：：：

BBB：ええ。

樫田：えっと：：

BBB：いいですよ。

樫田：よろしいでしょうか、もう始めてしまって。

BBB：はい、はい、はい。

樫田：お亡くなりになった時のことからですね、すこし教えて頂きたいんですけども、私共、こう：：資料としてはここにいま、見てるものしかないんですが、どういう感じだったんでしょうか。

BBB：あの：：：もうすこし勉強してこう：：：

樫田：いえ

BBB：あの：：これは本、本にもでているんです、あの：：え：：『官僚よく戦えり』という：：この：：田村洋三っていうんですかな、

樫田：はい

BBB：太平洋の洋に、よこ三、田村、田んぼの田に村ですね。この方の書いたあの：：：沖縄戦での：：け：：え：：：と、県庁職員の書いたものがあります。これはちょうどあの、南部の八重瀬町（具志頭村）港川付近で、あの：：：：殉職してるわけです、うちの父なんかは。

樫田：はい、すいません、本当にちやちな地図なんですけども：：：

BBB：これがですね

樫田：これがまあ、南部になりますが、南部のどこらへんでしょうか

BBB：これですね、南部の：：この：：：：具志頭、八重瀬町（具志頭村）の港川っていうところです。ミナトガワ：：：

樫田：あ：：：もう最後に旧日本軍が追いつめられたところ：：：ですね。

BBB：追いつめられてですね、追いつめられて、この：：：：あの本にも書いてあったんだけど、追いつめられて：：この：：沖縄戦が、もう：：県庁職員が：：解散命令が出たのが、20年の6月9日なんです。

樫田：6月9日：：：はい。

BBB：そして、うちの父が亡くなったのが、20年の6月の16日なんです。

樫田：ということは、ご公務に勤められる義務がなくなってから：：

BBB：はい。それで一応、これには理由があるんですよ。この警察部長：：  
：今でいう警察本部長が、身体こわしてあの：：：衰弱して、そいで：  
：この内務省に：その状況を報告しに：自分が行くなって言ったものだから、うちの父いわく、この：：：ここで：この身体では行けないから自分らが行きますというふうにして、やったわけですよ。で、夜は話しを：：：今まであの：：：うちの父なんかと一緒に捕虜になった、与那原ってところで捕虜になったひとの話は、うちが疎開してきたときに、うちはあの：：：その前にこの沖縄戦が、昭和十九年に、十九年のえ：八月頃、もう沖縄はもう：：：頻繁だから疎開しなさいって：：：最初わたしは残ると言ったわけですよ、父に。中学の一年生ですから、十三で。当時のあの旧制中学の。

樫田：はい。

BBB：それで言ったら、うちの母がおる、それから：：妹がふたり、弟が二人おったんです。

樫田：はい。

BBB：それでこれを母一人で見せるのか、それより母親一人で見せるよりはあんたも行きなさい、というふうにして：：疎開したわけなんですよ。熊本の八代ってところに。

樫田：はい。

BBB：それから：疎開して帰ってきて、この話をちょうどうちの父のグループと一緒にあって、他の人は亡くなったんだけど、この人は生きていたわけですよ。疎開、疎開から帰ってきて、うちと、うちの家族と話し合っ、たぶん、このミナトガワってところで、間違いないからっていうことで：：：そこで、もうだいたいの：父はいなくなったんだってことを：：その前に九州に、熊本の八代で、みな疎開者はあのかとき、警察関係、県庁え：：県庁関係、それから各市役所関係、の市町村の職員なんか、寺住まいなんですね、お寺。お寺に收容されてるんです、みんな。それで、熊本ばかりじゃない、それから大分とか、とにかく九州、宮崎、大分、それから都城とかいろいろ、宮崎のあそこでみんなお寺收容、あるいは学校、旅館の、旅館に收容されているわけですよ。みんなに話さしたら、向こうに行つてわかつたことなんですよ。それで帰ってきたのが、ぼくらが：：もう戦争が終わって、帰ってきたのが：：あの：：疎開から帰ってきたのが：：二十一年、昭和21年の、八月か九月ごろ：：とにかく暑い時期でしたから：：そこ記憶してないんですが、終戦が八月の十五日ですよ。

樫田：はい

BBB：そいで、それで二十一年の：八月ごろか帰ってきました。引き上げてですね（ ）の。

樫田：その時までは、お父様がお亡くなりになったという連絡はなかつた：：

：

BBB：もう、熊本で聞いているわけですよ

樫田：あ、連絡はあつた：はい、はい、はい。

BBB：熊本におるときにですね、全部聞いているわけですよ、あの：：亡くなったひとは。だから生きてるひとは、ああ：：風の頼りで、あ：：生きてると。それでもう小さな祝賀会をしてるわけですよ、みなもう：：お

寺の本堂のなかに：：昼は片づけて、晩はそこで荷物で囲いして寝てるわけですよ、みんな。

樫田：はい。あ：：大広間なんですね。

BBB：大広間：：本堂のところで、みな荷物で仕切り入れて、あの：：暮らしてるわけです。それであそこって、自分なんか、もう弟：：まだ六ヶ月の弟を亡くなり、亡くしました、肺炎で。あのときの急性肺炎って、今だったらもう生きるあれなんだけど、あの当時はもう：：こういう薬がないんで：：ちょうど：：え：：19年の9月9日ですか、亡くなったのは。それでも、父親ももう亡い：：：

樫田：すいません、メモを：：：19年の9月：：：なんにち：：：弟さまが：：：

BBB：え：：父親がなくなったのですか？

樫田：いえ、弟さまがお亡くなりになったのが：：：

BBB：ああ：：昭和あ：：19年の9月9日。

樫田：9月9日：：：はい。

BBB：ええ、9月9日。

樫田：ご疎開にお出になったのはいつくらい：：

BBB：これがですね、疎開したのが、昭和19年の7月

樫田：しちがつ：：

BBB：ちょうどここで、うちなんかは、中学で、中学生入学して、翌日からは高射砲陣地の塹壕づくりですよ。あの、小禄飛行場とか、天久の高台：：あのときは沖縄で高いといえばもう：：：高い山はないんですが、高いところで高射砲陣地をつくったり、機関砲陣地をつくったり、あの：：：防空壕をつくったりしてですね、それ、中学生：：：そいで：：：ちゅう、中学の一年で、自分らが最初に：：引き上げた：：あの県庁職員と警察職員、この人たちが、その家族が向こうに行ったわけです。それで実はうちの父なんかは八重山に：：：わたしのじいさん、ばあさん、いらっしやるもんだから：：：八重山からはどうすればいいのーって言ったら、疎開しないで、うちは仕方がないから、みんなに模範しめさなければいかんから、疎開をいつているんだって、ほんとに疎開しないほうがいいっていうようなことを：：：

村中：あ：：そうなんですか

BBB：言っているわけなんですよ。だから、疎開しないで残った人もおるし：：沖縄でも。残ったひともおるし、それからこの国頭のほうに、やんばるですか、名護、以北のほうに疎開したひともおるわけです。それで、このクニモトを半島を、うちの母方の里があるんですが、そのじいさん、ばあさんは疎開していないんですよ。疎開したのはうちのだけ。

樫田：あの：：すいません。母方のおじいさんおばあさんはどこに：：？くに：：：

BBB：本部の伊豆味っていうところ。伊豆味ってあの：：伊勢の伊に、豆、味ですね。豆、味ですね。そこです。これ、これ。

樫田：ああ：：イズミ：：伊豆味。

村中：あ：：書き直しておこ。

BBB：そこにいて、そこは、そこにもう、そこからも電話きてるわけですよ、疎開したいんだがって言ったら、え：：あんたがたもう、うちの父なんかはもう年寄りを動かすのはもう、大変だということで、いや：：：大



丈夫だからあの：：疎開しないでいい、もうこっちは県、模範を示さなければもう：：疎開しないんだから：：その後です：：あの学童疎開がやられたのは、うちが着いて：：鹿児島に：：熊本について：：：2日くらいたってからですね：：あの日にちはわかりませんが、学童疎開船がやられるぞという情報はいってきたのは：：：

榎田：たくさん死んで大変でしたよね：：ほとんど生き残らない：：：

BBB：もう、あんときは、あまり、生き残った：：あそこにある：：：うちの同級生も：：こないだ、あれした：：同級生：：先生してるのがおったんですよ。このひとたちも：：：亡くなっています：：：

榎田：はい：：それは、すみません、記憶がはっきりしなくて、対馬丸とは別の疎開船：：あの：：：

BBB：いや、うちはですね、こっちから、疎開船は、あのときは輸送船、名前もわからない輸送船、それから軍艦、駆逐艦なんかは：：：もう板ひいて、なにか、うちなんかは板ひいてそれを鹿児島まで、鹿児島に上陸したんですけどね、荷物ももう、荷物持っている家族と、うちなんかもう、うちの母なんかは、わたしいれて五名おるもんですから、え：：：そう、五名を：：：

榎田：それは、お母様と、弟さまと：：いま：：：

BBB：弟が：：はい、妹がふたり：：：

榎田：妹さまがおふたかた。はい。

BBB：いもうと：：弟がふたり：：：

榎田：はい。

BBB：それにわたしですね。そいで、母親。これは（聞いた）ですがね、もう：：：着の身着のままでしょうね、今考えれば：：あの：：持たなくていいから、旅行してると思えばいいから、この荷物必要ないから、トラック、大きい、あの：：昔のやなぎごおりっていうんですか、あの：：この：：なんていうのか：：あの：：荷物なんか：：：

榎田：ええ、うちも押入にありましたけど：：：ふたをかぶせて箱に：：：はい

BBB：そうそうそう、あれをいつつ持てば、五つ持てばいいから、家族の衣類と毛布これだけ持てばいいからっていうことで、あの：：あれしたんですよ：：：

榎田：その時にはご長男さまが最年長で、

BBB：そうです、そうです。

榎田：あとはずいぶんお若くていらっしゃったわけですよ。一番したの弟さまが六ヶ月：：：

BBB：そう、六ヶ月：：：

榎田：そのうえも、こう三つとか四つとか：：

BBB：そうそう、妹の：だけ：：一番、すぐ下はわたしとひとつ違いですから十二ですね。十二で、わたしが十三：：十二に：：それから三つかなあ、弟がおって、弟がおって、それから妹が、一番もう：：：まだ言葉もはっきりしない妹だったんですが、その妹に、それから六ヶ月の男の子ですから：：：

榎田：じゃ、十二歳の方は妹さまでいらっしゃって：：：

BBB：はいはいはい。

榎田：じゃ、動けるのはお母様と、あの：：：

BBB：わたしなんです。

- 樫田：え：：：d d (BBB さんの名の部分) さまと妹さまの三人で、あとはもうちっちゃな子すぎて、とても：：：
- BBB：え：：ちっちゃすぎて：：：
- 樫田：それでもやなぎごおり五つは大変だったんじゃないですか。
- BBB：もう大変だったですよ
- 樫田：両手になってしまいますよね
- BBB：はい、これを、それでトランクがえ：：：やなぎごおりは五つもって( )、ひとつに入れて、あの：：トランク、革のトランクの大きいやつをあの：：三つもっておりましたからね、みんなで四つか、四つかもう、それこそ精一杯ですからね：：：それでもう他に持って行ったひとは相当持って行っているんですよ。
- 樫田：あー、そうなんですか。
- BBB：はい
- 樫田：疎開の時に荷物をたくさん持っていくひともいるんですよ。へー。
- BBB：あのときには、今でいう布団袋：：布団袋もってる家族もおりましたからね。
- 樫田：まあ、北のほうは寒いと心配なさったのかもしれませんが。
- BBB：そう、そうです、それであの：：気候が変わるもんですから、それで一番、下の弟はもう：：肺炎を起こしてしまってますね：：：：：うちの父なんかは、この一番末っ子の弟が：：：あの：：：亡くなったのもわかるんです。文通しておる。そのときはもう全然、もう、そのたんびに県庁とか警察関係のひとが出張で、各県を回って、あの：：生存者のこの：：確認ですね、いわゆる疎開、どこどこに疎開してる、どこに、どの家族はどこに疎開してるっていうことを把握のために来ているわけです。それで軍に依頼してなにか、鹿児島から、鹿児島の軍：：あの飛行場：：あの：：軍のあの陸軍の飛行場から、この：飛行機でいった人もおるし、また船でいった人もおるわけです。
- 樫田：文通の頻度っていうのはどれくらい：：：月に一本ぐらいハガキが行き来するって感じでしょうか
- BBB：いえ：：もう：：：あの：：：あのときにはですね、ハガキの文通というのはですね、ん：：：一回：：向こう：：沖縄から来ていたのは父親が来ていたのは、一回：：：一回、二回：：：二回：：あの一回目はあの：：みんなに各人に僕はじめ、子供達に：：：
- 村中：お一人ずつにですか。
- BBB：ひとりずつ：：手紙書いて、あの：：送ってきてあるし、亡くなったという知らせも、亡くなった：：もう国のために、あの：：：お父さんより先に死んだんだって、親父はまたこう：：：
- 樫田：あ、弟さまがお亡くなりになったとき：：：
- BBB：ああ、それも知ってるんです、ちゃんと。
- 樫田：えっと、ええっと、お父様から最初お手紙がいらしたときには、まだ弟さまはご存命でいらっしゃったっていうことなんですね
- BBB：ああ、はい、はい。
- 樫田：で、そのあと、弟さまがお亡くなりになったことを伝えるとお返事が来たっていう：：：かんじなんでしょうか
- BBB：ああ、そうです、はい。そこまでは、どういう方法だったかわかりませんが、いわゆる、そういう：：：：手紙での連絡は出来たわけですよ。もう、こっちから何もないから、黒砂糖の：：：これくらいの：：黒砂

糖を親父が買って、箱詰めしてですね、これでなにか物々交換でもして、砂糖と代えて、あの：：：暮らしなさいということですね、もう：：：これくらいのあの：：：何キロですか、あれは：：：え：：：二十キロくらいのを二つに分けて、あの：：：送ってあったですね。

榎田：それは、疎開の時に持ってきたのではなくってあとで：：：

BBB：疎開のときにも持って行って、それからまた別に、またあの：：：来たかったですね。

榎田：貴重品なわけですよ、砂糖といえば。

BBB：そう、そうそうそうです。

榎田：配給の制限の外側なんですか、砂糖というのは。

BBB：もう：：：どっちかっていえば：：：

榎田：

BBB：どういうふうに入れたかそれがわからないですよ。

榎田：なるほど。沖縄ではまだ手に入ったってことなんですね。

BBB：はい、手に入って：：：どういうふうにあれしたか、これ持って行きなさいというふうにして、買えたのか、配給制ですから、どう：：：それはわかんないですね。そいで、国頭（くにがみ）のあの〇〇〇（村内の地名）：：：昔はあの、各字毎に、村の字毎に製糖工場がありましたからね：：：こここの辺でも、南部でも：：：製糖工場がああ：：：各字毎にあったですから、その国頭からの：：：もんじゃないかなあと思いますね。

榎田：ああああああ

BBB：あの：：：いわゆる、うち、この、あの、母方のあれなんかですね：：：

榎田：あの：：：お亡くなりになった場所は伺ったんですが、もともとご勤務をしてらっしゃった場所は、どこで勤務されていらっしゃったんでしょうか。お父様は：：：

BBB：勤務：：：那覇：：：

榎田：那覇で：：：

BBB：那覇の県庁内に警察部っていうのがあったんですよ、警察部っていうのが：：：

榎田：そうすると派出所ではなくって本部の職員で：：：はい

BBB：もう、〇〇（沖縄県内の地名C）署長から：：：〇〇（地名C）

署長：：警察署長しとって、〇〇（地名C）署長からいわゆる

るえ：：：十九年：：え：：：：そうですね、十九年にあの：：：転勤したわけですよ、警防課というところに。もう：：：一番：：：：いわゆる警防課というて、今、あのときにはわかんない：：わたしも警察に入って初めてわかったんですがね：：：

榎田：あの：：：d d（BBBさんの名の部分）さまも警察職員でいらっしゃったわけなんですか、まあ。

BBB：あの：：：ちょうど警察に入ったのが、昭和24年の12月1日です。はい。もう疎開から帰ってきて、学校：：：高校：：：あの：：：終戦後のあの：：：：アメリカ軍の占領下あの：：：てん：：：：大きな天幕がありますでしょ。

榎田：はい

BBB：あれのところで、校章つくって、あの：：〇〇（沖縄県内の地名D）のほうだったですけど、僕は：：〇〇（沖縄県内の地名D）の、〇〇（沖縄県内の地名D）であの：：：昭和十二年ですね、十二年の：：：ああ

いや、昭和二十四年の十二月一日に警察に入って、それで退職したのが平成〇〇年の：：平成〇〇年の三月三十一日ですか：：：

樫田：つい、ついこの間までお勤めでなっっちゃったんですね

BBB：はい、そうですね。

樫田：そうすると、お父様を知ってらっっちゃった方も当時はたくさんいらっっちゃったんじゃないですか

BBB：あ、おりましたですね、おりました。あの：：あの：：：みんなうちの親父に教えられて：：：うちの親父は沖縄県での警察官じゃないんです：：：

樫田：国家公務員：：：

BBB：警視庁です、警視庁のあの：：：あの：：：で、よくあの話し：：小さいときに聞いて：：二二六事件の話とか：：：あのころの話しをよく聞かされたんですよ：：

樫田：はいはいはい。あ、じゃ、ほんとに東京でお勤めをしてらっっちゃったわけなんですね。

BBB：はい、わたしも東京生まれなんですよ、実は：：

樫田：あ、それは：：：

BBB：わたしと妹はですね、東京生まれなんです。それではあさん、自分の両親がおるもんだから、向こうは：：：あのときの：：この組織はどうだったかわかりませんが：：もう：：：年寄りも置いてあるし、弟もおるっていうこと：：それで、沖縄に引き上げてきたわけですよ。それで

樫田：その時は、お歳は：：：お歳はおいくつでいらっっちゃったんでしょうか、お父様がお引き上げになった、沖縄にいらっっちゃった：：

BBB：それがわからないです。それがわかんないんで：：亡くなったのはわかるんですけどね。

樫田：ああ、あ、お亡くなりになった歳は：：：

BBB：三十九ですね

樫田：三十九歳：：

BBB：三十九歳です

樫田：その時にえ：：：とご長男さまが十三歳だから、二十六歳のときのお子様で、二十六歳のときには東京にいらっっちゃったってことですね。

BBB：はい、はい、そうなんです。

樫田：弟さまが沖縄にいらっっちゃったわけですね。お父様の弟さまが：：

BBB：はい。

樫田：それは：：お仕事はなにを：：

BBB：あの：：：え：：：とですね、税務署：：：戦前の税務署職員で、銀行：：沖縄の銀行職員もして、今はもうあの：：：ちょっと身体こわして施設におるんですけど：：

樫田：あ、でもご存命でいらっっちゃって：：：

BBB：はい

樫田：八重山でお父様のお父様はなんの職業をしていらっっちゃったんでしょうか

BBB：え：：：うちからいうじいちゃんですね

樫田：はい

BBB：あの：：：なんていうんですか、昔はですね、あの：：：黒糖の濃度の検査、いわゆる公務員ですかね、あの濃度の検査員：：：監査、監査役

- してですね、それで昔は今のようにあの：：：単身赴任とかというの  
なくて、みんな家族での異動です、昔は：：：もう：：：沖縄の警察に  
しろ、公務員になれば家族を、戦前は、家族で異動しとったわけですよ  
ね、あの：：：転勤するときには家族でいって、あそこで家をかりて：：  
榎田：官舎があったり、うちを借りたりってことですね：：  
BBB：官舎はもう：：：官舎があるのは警察の署長くらいのもんでしょうね。  
榎田：なるほど。あとはじゃ、借りなきや：：  
BBB：借りなきやいけない：：：それで人の家の民家のあの：：：一番座：：  
一番上の、一番座っていうんですか、あの：：：上のほうの床の間の：：  
：：部屋を借りてそこで生活するわけですよ：：：  
榎田：お役人さまだからってことですか  
BBB：そうですね。それであそこに退職してからは：：：もう向こうが暮らし  
いいということで：：：：一式を八重山にうつして、あの：：：生活し  
ていくんですよ。  
榎田：あ、弟さまが：：：あ、父の父：：：お父様のお父様：：  
BBB：ええ、あ、で、戦争のときに亡くなったんです。  
榎田：戦争で亡くなった：：：  
BBB：え、戦争中に疎開先で、いや疎開というよりは避難場所、避難場所で：  
：：いわゆる白水（石垣島内の地名）という、八重山の白水というところ  
であるの：：：亡くなったんですよ、マラリアで：  
：：  
榎田：あ：：：まあマラリアがあるところに追いやられたと考えれば戦争で：  
：：亡くなったみたいなもんですね  
BBB：戦争でですね：：はい。  
榎田：いや、あの：：：どの話しも面白く伺っているんですけども、えっとさき  
ほどあの：：：二十年のですね、6月9日にはもう、あの：：：職務をこう  
離れていいというようなですね、命令があったっていうお話があつて、  
でもお亡くなりになったのが6月16日だっているのはですね、あのご  
説明頂いたと思うんですが、もう一回教えて頂けないでしょうか。職務  
中にお亡くなりになったっていうことですか  
BBB：もう：：：いわゆる、あの：：：警察は解散しているからということで、  
そこから引き上げて、昼は動けないわけですよ：：：  
榎田：砲撃があったり、はい。  
BBB：夜しか、夜も、もう夜中しか動けないわけ：：：なんか、その、あの：：  
いわゆる生き残ったひとの、捕虜になって生き残ったひとでこのひとの  
話しでは、これにも二、三日がかりだったそうですよ、この南部からそ  
こをとおって、行くまでには。それで、二、三日かかって：：：夜も：  
：：いつもモグラと同じようにもう：：：昼はもう壕にはいっておって、  
そこからアメリカ軍が通っても、もう：：：こう：：：なんか隠れとつ  
て、ああいう生活だったからそのぐらいになったんじゃないかなあとい  
う話しですね。  
榎田：そうすると6月9日までは那覇にいらっしゃった：：  
BBB：いや、那覇じゃないです、  
榎田：無理ですよ、那覇は占領されてますもんね  
BBB：みんな、占領されて、みんな、あの：：：なんていう：：南部なんです  
よ、南部でも、あの：：：焼かれてあとからというのはもうみんなあの：  
：：壕のいわゆる岩の影とか、いろんなこの溝にはいるとか、（人も）

これは夜しか動けないという：：：

樫田：ただ壕にいても向こうは日本兵がいるんじゃないかと思って攻めてくるわけですよ

BBB：そう、そう、そうですよ

樫田：自分がでてからでも：：：ええ

BBB：いわゆるバラ線（有刺鉄線のこと）、、バラ戦っているんですか、あれを撒いて、みんな撒いてこう：：：周囲を包囲してますから、そこでもうピアノ線にちょっとでも触れたら、機銃掃射はったといいますからね

樫田：おお、それはあの：：向こうは基地を夜襲から守らなきゃいけないし、あの防御線を引いてるわけですよ

BBB：そういう話し、しとったですね：：：だからそのぐらいかかるんじゃないというふうには：：解散命令はこちら、解散命令やっても：：：だから地方にいて、あの、地方にいったいわゆる警察職員はだいたいあの：：生きておるんですよ。うちで、熊本で：：うちのところに疎開したひとで各署に、〇〇（沖縄県内の地名D）と：：：〇〇（地名D）の警察署とか、モトブのモトブ警察署とか、あれへんどの警察署におったひとたちの家族は、あ、本人はみんな、生きてる生きてるだったからですね。亡くなっているのは本部なんですよ。もう、警察職員で、警察職員でむこうで本部のひとで亡くなったひとはもう、こう、沖縄に帰っても、沖縄もやられてるし誰もいないのについていて、東京に引き上げた家族もおるんです。東京にですね、もう一からだからもうどうせ東京もやられてる、沖縄もやられてるんだからどうせ、もう、同じ苦勞ならひとのいないところで苦勞しようやというふうにして行った人もおるし、それから、そうだ、うちの場合はなんで沖縄に来たかということですね、沖縄に引き上げても親父もいないのにといいて、そこにたまたま：：：母親の弟が復員で帰ってきたんですよ。ちょうど熊本のあの：：：いわゆる熊本の、いわゆる（〇〇：母親の弟さんのお名前か）ですか、あれの生き残りで帰ってきて、ジャワ島から帰ってきてるんですよ、あの、復員で。

樫田：はい。

BBB：それで、疎開者名簿みたら、うちのお袋の名前が、とその家族の名前があるもんだから、ああ、八代に引き上げてきてるんだということで、訪ねてきておったですよ、あのいわゆる終戦後の大リュックサックしよってですね、顔も真っ黒でですね、帰ってきとったですよ。

樫田：えっと、昭和の何年くらいにジャワから：：：

BBB：それがちょうど終戦でしょ、

樫田：はい。二十年：：

BBB：終戦ですからその後：：その日にちはわかんないんです。

樫田：はい

BBB：ちょっと待ってくださいよ、おしっこに行つて：：：

樫田：あ、申し訳ございません、ずっと待たせておきながら気がつきませんで

：

BBB：ごめんなさい

樫田：とんでもございません

<樫田・村中会話>

BBB：どうもすみません

樫田：とんでもございません。あの、いつでもあの：：：言って下さい。我慢して頂く必要はないかと思います。あの、いえ、お母様の弟さまが復員をなさって、ご家族のところに合流なさったというお話：：：

BBB：そうそう、それで沖縄に行く気になったんです。あそこのあの：：：母親もどうなってるかわからん、弟たちもおるのにどう、どうすればいいの：：：一応帰ってみて、そこで決めようやということでは：：：

樫田：はい

BBB：それで、戻りたかったら戻ってもいいんじゃないかというふうなあれなんです

樫田：東京は、何歳ころまでいらっしゃったんでしょうか、d d（BBBさんの名の部分）さまは：：：

BBB：わたしは：：：：わかんない：：：まだ：：：

樫田：学校は、小学校はどちらで

BBB：え：：：研修で帰ったときにまた向こうで学校でていますからね、

樫田：はい

BBB：研修で一応帰ってきて、四十日研修とかなんか、なんか、研修で、そのときに一学期だけ、一学期だけでているわけですよ。

樫田：東京の学校に一学期だけ：：：

BBB：そう、だからあの：：：いつつ、五つくらいのときに来ていると思うんです

樫田：沖縄のほうに

BBB：はい。で沖縄で生活しとって、研修でまた学校はいる前に行ったんでしょうね、

樫田：はいはい、東京半年とか一年とか：：：

BBB：はい、はい。

樫田：まあ、内務省、（ ）ありますし

BBB：そこははっきり、わたしは定かではないんですがね、自分で。母親はもう亡くなって二十三年になるんですけども、母親やったら：：：ここに呼んできていろんな話し、しよったかもしれませんが

樫田：頂いた資料にはですね、砲撃を受けて、お父様がお亡くなりになったと書いてあるんですが、これは：：：まず：：：

BBB：まず、そう、そうなるわけです。

樫田：見た人がいるってことなんでしょうか

BBB：そう、そうなるわけです。

樫田：はい。砲撃：：：

BBB：はい、砲撃中に、もう、受けながらあの、そこまで来てるということですね、

樫田：はい

BBB：だから誘導、なんかその前にこの避難民の誘導もしとるわけですよ

樫田：はい、働いてらっしゃる：：：はい

BBB：で、やりながらそれで、ほう：：：砲撃受けて：：このずっと北上しよう：：：受けながら北上して、捕虜になったひともおるし、やられたひとも、5名のうち：：：父親、5名かなんか言っとったですよ、それで一人は：：：：捕虜：：：捕虜になってやられたってことでは：：：

樫田：えっと、お父様はつまり指揮官として、部下を連れて、避難民の誘導に  
：：：

BBB：そう、そう、そうです。

樫田：当たられていたってことですね：：：

BBB：そう、そう、そうです。

樫田：その部下五名：：：部下四名ですか、部下四名のうち、生き残られたか  
たがこの、えー、砲撃を受けてお父様がお亡くなりになったと報告をし  
たってことなんでしょうか

BBB：そうですね。この戦後、戦後あの、生き残ったひとたちがあの：：：自  
分のあれで記録を：：：警察の、あの、警察史のなかにこの：：：感想文  
っていったらあれかな、この、状況報告のようなものを、警察史のなか  
にあるんですよ。

樫田：はい。沖縄県警察史の：：：

BBB：ええ、警察史のなかにみな、誰がどういう事を言った、どこでどう自分  
はどういうことをした、それとどういうことをした、って。それでうち  
に父なんかはどっちかといえば、この正義感とこっちやおかしいですけ  
ど、たいへんこう：：：線を引っ張ったような正確のひとだもんだから、  
なんでももう、大和魂だというふうな、あの当時はそういうふうな国民  
全部が、あの、あれされてるもんですから、結局この：：：そのなかに  
△△という（沖縄のある地方B）署長だったひとが、あの：：：うちの  
父から言われて命だけは大事にしてくれと、捨てるんじゃないよという  
ことをあの本にも書いてあるんです、ちゃんと。だから、そういう：：  
：この、線をひいた、この：：人であっても、ああ、あんなこという、  
少しは（ ）とほんとにあれじゃないなーと思ってですね、今考えれ  
ば

樫田：えっと、SSさんは、最後一緒にいらっしゃった五名のうちのひとりな  
んですか、それとはまた別にいらっしゃって

BBB：いえいえ、別、別ですね。あの：：（沖縄のある地方B）署長までした  
方なんです

樫田：はい

BBB：あの戦争中：：：：

樫田：そうすると北のほうであの、砲撃にあわずに生き延びられたっていう感  
じなんでしょうか

BBB：いや、（沖縄のある地方B）で：：：

樫田：（沖縄のある地方B）って、あ、（沖縄のある地方B）って電文こなか  
ったんでしたっけ

BBB：かえってきて、みな帰ってきて一応：：：話しはとぎれとぎれになるか  
もしれない：：：

樫田：ああ、なるほど、後々に署長に：：：

BBB：ああ、戦争中に（沖縄のある地方B）に転勤してるわけですよ、単身赴  
任して。その人が帰ってきて、いわゆる自分のいろんなひとの感想文、  
知り合いの警察史のなかに書いてありますのでね、

樫田：はい

BBB：あのなかに全部：：：それみてわたしは、ああ、やはりいくら正義感が  
強いって言っても命だけは大事に：：今考えればあのときには、命はあ  
の：：：国のために、国のためと言っていたのが：：：今考えれば、  
ああ、すこしはそういうあれがあったんだというふうな、考えるんです



ね

樫田：それは息子様からみても、あまりお父さんが言うのにはふさわしくない、その命を大切にしろっていうようなのは、お父様の日頃の謹厳実直さからみると、なさそうな言葉がけだったという感じでしょうか。

BBB：そう、そうですね、そうなるんですね：：：もうなんにも、あのときのこの：：子供達に対する教育っていうですか、国のためにやるんだとって、なんか、鬼畜米英のそのどうのこうの、自分からすすんでなんでもやるんだ、竹槍もこう、こうしてやるんだっていうふうな教えて：：いたひとが、あの戦時中に、命ばかりは大事にしてくれよ、ちゅう、うちの家族みんな、ああ、ああいう柔らかいところもあった、あるんだというふうに家族で時々、命日の日なんか話しますよ。

樫田：もう一回、あの：：戻ってですね、一番最初に疎開先に、えー、お父様がお亡くなりになったというご連絡が来たのはいつ頃になるんでしょうか

BBB：それは：：：わかんないですよ、うちの母親だったらね、記憶は、記憶はあったと思うんですけどね、あの：：お父さんもういないらしいよーって、みんな集めて、子供達全部集めて、お父さんいないよ、それからもう一人の家族、そこのこのジャハナとってこの人も：：：親子三名だったんですがね、長男、長女、それで奥さん、三名だったんですが、この人達も：：：向こううちはいないらしいよってって：：それでも、疎開から帰ってきてでも信じられんで、あちこちこの：：：沖縄南部行って：：探しましたよ、あっちを。うちの母親なんかはですね、あの：：：あんときにはもう、規制されておりますからね、この地区から南部地区は：：ここに行くにも許可がなければ通れんですよ、（ ）へ行くにもあの：：：許可がなければ、憲兵隊の許可がなければ通れんもんだから：：：その隙間を縫って、許可をえて、警察の、あのときわたしはまだ警察入ってませんけど、うちの親父の、いわゆる知ってるひとたちを、話しして、あちこちこう、遺骨でもないかなというふうに、遺骨探しとか、それからどっかに生きてるんじゃないかなとって、探したこともあるんです、うちの、ち、いや母なんかは。

樫田：そのときにはご長男さま、ついては行かれずに：：：

BBB：わしは、行ったのはですね、うちのあの：：：そ、え：：：復員してきた叔父ですね、いわゆる母の弟なんかが行ってるんですよ。で、情報を集めてですね、どうだった、こうだったって、あんときの情報をみな集めて、いわゆる島袋というかたにも会ってるわけですよ、この、あの：：：

樫田：はい、はい、（沖縄のある地方B）署長の：：：はい。

BBB：あの人もあって、話し聞いたり、警察関係でどうふうな情報を集めてくれてってって、いちいち聞いて、どういうふうな、どういうふうだったっていうふうにしてですね、聞いて歩いたそうです。

樫田：でも警察のほうはもう、えっと：：：資料上、殉職ってもうとつくに確定してるわけですよ

BBB：ええ、してるんですけど、

樫田：はい、それでも

BBB：それでも、いわゆる家族にたいしては、もう：：：：そうはいかない、いや、どっかにおるよっというふうな、すこしの：：この：：望みがあったわけですよ

- 榎田：あの、今日来てる理由がですね、こう：：：慰霊祭でありますとか、追悼でありますとか、そういうお話がどれだけこう、まあ、個人としての、お父様をお忍びするお気持ちとですね、重なっているのか、あるいはずれているのか、別のものなのか、同じものなのかっていうのをえ：：：お伺いしようと思うのですが、追悼式典というのですね、最初にお出になったのはいつぐらいからになるんでしょうか。
- BBB：あの：：：終戦直後から、この：：：（慰霊祭）そこに碑が、碑をつくって、うちが警察に入って、うちはコザの中部の警察署に赴任したんですよ。
- 榎田：はい
- BBB：それでその署長がうちのおやじと大変こう、親しいあれで、それで、BBBくん一緒に慰霊祭行こうとって、よく誘われたもんですよ、一緒に：：：あとは上着変えないでいいからそのまま行こうというふうにして：：：あの：：：慰霊祭にもいったことある：：：それからもう仕事が忙しくて：：：その代わり母親が、あの：：：まあ、ちょうどあの：：：教員いわゆるひめゆり：：：ひめゆりのあの：：：出身ですから：：
- 榎田：あ、そうなんですか、お母様、ひめゆりのご出身なんですか、第一高女：：
- BBB：いや、あの師範です、女子師範
- 榎田：あ、女子師範ですね、ひめゆりですから
- BBB：女子師範なもんですから、学校：：慰霊祭の日は、暇をとっては慰霊祭に参加しておりました。そして亡くなる：：：昭和ろく：：：昭和六十年の7月6日に胃ガンで亡くなったんですけど、それまではずっとあの：：：沖縄遺族連合会の役員をひとつたんですよ。役員を。
- 榎田：はい。
- BBB：それで役員をしてるもんですから、そういう関係のところにも、だからあの、毎年、毎年行われているあの：：この：：：慰霊の式典にはですね、毎年、ま、最初は歩いたことも、この糸満から南部まで歩いたこともあるんですけど、もう歳の（　　），行きはするんですけど歩いたことはなかったですね。
- 榎田：えっと、今、歩かれたっていうのは、えっとナミの：：上の碑ではなくて：：：
- BBB：いやいや、全体の：：
- 榎田：全体の、沖縄の、6月23日の：：：
- BBB：はい、はい、
- 榎田：慰霊祭のほうですね
- BBB：そのときにはあの：：：糸満からあの、摩文仁の丘まで、はい、まあ、若かったんですよ、あのときには。
- 榎田：この警察のですね、慰霊祭がありますよね、こちらにご案内はあの：：届いていらっしゃると思うんですが、それにご出席なさった経歴は、お母様はおありなんでしょうか。
- BBB：はい、あるんですが、わたしはもう：：：
- 榎田：まあ、職員でいらっしゃる：：
- BBB：たい、退職後、退職まではもうずっと六十年頃まではもう：：：：え：：：母が亡くなって、亡くなってからは二、三回行ったんですけど、それまでまた、暇の、暇なときに、なにか、仕事が忙しくないときには、出席していました。

- 榎田：えっと、d d（BBBさんの名の部分）さまのご退職は昭和何年ぐらいになられるのでしょうか。
- BBB：え、なんですか
- 榎田：え、ご退職になったのは
- BBB：平成：：え：：
- 榎田：あ、平成、あ、さっき〇年とおっしゃいました
- BBB：平成〇年。
- 榎田：えっと、今ほどのお話というのは、昭和60年にお母様がお亡くなりになるまでは、お父様の慰霊祭はお母様が中心に：：：
- BBB：はい、中心に、わたし、その今日は行けないからあんた行ってくれっていうふうに連絡がきたら、兄弟で相談して、交代交代で、暇をみて：：  
：：え：：暇が、この：：暇っていったらおかしいけど、やはりその合間をみて、行ってくれっていうことを話し合いしとったわけですね
- 榎田：で、昭和60年をすぎると、え：：、やっぱりご長男様としてのDD（BBBさんの名の部分）様が中心でお父様の慰霊祭にお出になるという。そうすると60年以降はあまりお休みにならずずっとお出になっているっていう：：：
- BBB：はい、行ってますね
- 榎田：勤務中ですよ
- BBB：勤務、勤務中ですから、勤務中は行かないで兄弟が行ったりしてるんですね
- 榎田：はい、ああ、そうするとご退職の平成4年まで：：：平成4年でよかったですよね
- BBB：うん
- 榎田：平成〇年まではえっと、お父様の慰霊には、続けてご兄弟で交代交代で、行かれていたという：：
- BBB：ええ、行っています
- 榎田：その勤務時間が終わったあとですね、あの：：：行くっていう機会もお持ち：：：になっていたんでしょうか。
- BBB：それって、わたしがあの：：：仏壇もつとるもんですから、（おおきいて）、この、いわゆる：：：般若心経を唱えるんです、わたしは。
- 榎田：般若心経
- BBB：というのは、この般若心経をなぜやるかという、疎開先でお寺ですから、そのときにあの教えてもらって、般若心経を唱えて、あの：：：やります。
- 榎田：あの：：：般若心経を覚えたのはお寺だっていうのは分かったのですが、ご宗教関係を伺いたいですけども：：：
- BBB：それはわかんないですよ：：：
- 榎田：ああ、おうちのご宗教というのが
- BBB：宗教、沖縄ではですね、祖先崇拝のあの、あれなもんですから、この宗教、宗派っていうのがないんです、沖縄には
- 榎田：なるほど、さきほどAAさまもそういう感じでおっしゃってありました。
- BBB：うん、無いんです。それで、これは、わたしはもう般若心経で、うちの家族はもう全部こうやってんのは、あの：：：熊本の疎開先でちょっとそのときにもうみんな、戦争は勝ちますようになっていうふうなあれですからね
- 榎田：ああ、まだ戦争中ですものね。

BBB：ああ、戦争に勝ちますようにって、それで戦争が終わってからは、生きていますようにというふうにして、般若心経を唱えるわけですよ。だからあの：：ただ親戚、親戚が集まって、お墓に行くというのは、だいたいあの：：集まるっていうのは、あの：：清明祭、四月中におきる沖縄の清明っていう、清明祭、そのときだけですわ、あの：：集まるのは、やるのは。だいたいあの：：うちうちは、のお墓にくるのはもうだいたいうちの家族の親戚といったところで、母方の親戚、それから父方の親戚、これだけです。だからざっと集まっても：：十五名、十名くらいなもんですよ。

樫田：それを、清明：：に：：：

BBB：清明祭って、まえあの：：毎年4月頃ですよ、4月。4月：：：4月中でやるようになって、4月いっぱいやるようになってるわけですよ、4月のだいたい5日、5日ごろからあの：：さつきもあったと思う、カミウシーミーっていうのが（ ），神清明祭カミウシーミーっていうのはその、本家祖先の、これをやらんと自分らの清明祭を、あの：：清明祭をできないわけなんです。だからこれ、もとのこの大きい、え：：祖先の：：あの：：：いわゆる清明祭をやって、それで何日か後には、一週間後には自分らのものをやると。ムンチュー、だからあの、糸満辺では、糸満とかでは、門中墓といって、お墓はないわけですよ、この門中（一族）のひとたちは。お墓はひとつしかない。そこでムン、ムン、一門がやったら、糸満辺ではないんですが、この国頭辺では、それから自分のものをやるんです。祖先の、あの：：あれをやってからですね。

樫田：じゃあ、三回もやんなきゃいけないんですね、神清明祭カミウシーミーと沖縄の地方によって異なる門中（一族）と自分のと。三回。

BBB：そうです。そうです、そうです。三回、三回やるんですけど、そのときには三回やるんですけど、ただ：：こう、手を合わせに行くだけです。カミウシーミーも、その直接は預かっているひとがあんまりやるんであって、この自分らがやるときには、ここのご馳走とか、いわゆる15個つくって、やるのは、この果物とか、このいわゆる沖縄の料理のあの：：六品とか九品というふうには、むつつの品があるんですよ、かまぼこ、かまぼことか、この天ぷらとかですね、ゴボウとかあの、いわゆる昆布巻きとかですね、ああいうのが六種類のと九種類があるんですよ、それはどっちでもいい、ひとに、こだわるひともおります、年寄りには。この、あの、料理にですね、なんであんながた、なんでもないのに九品つくるんで、六品で、六品でいいんじゃないかなんていうんですよ、またそのほかに、お餅を15、15のお餅があるんですよ、お餅15個も。この、この料理のものとシロ餅を、あの、ひとつを供えて、それにプラスのいわゆる果物、必ずあの：：なんていうんですか、みかんと、あの：：みかんと、バナナは必ず、つくんです、この果物として。

樫田：えっと、それは神清明祭（本家が先にやる）カミウシーミーでもそうだし、門中（一族）ムンチューでもそうだってことですか

BBB：ええ、そうです、そうです。

樫田：三回とも

BBB：だから、この：：品は、いく品に、あの：：九つにしなさい、六つにしなさいっていうのは、ま、その年寄りがうるさいんですね。これでいいんじゃないのーっていうんだけど、いや、これじゃ通らんって（笑）、

いわゆる通してくれないよというふうに言うもんだから。結局、料理つくるのは自分のものときにだけ作るんで、いわゆる一番祖先の大きいところと、カミウシーミーとかああいうときには、そこの：：実際、預かっている人がつくるんであって、それでなかにあの、お酒一本、一升瓶一本、まあ、お供えしてくださいって行って、行く人もおります。お供え、お供えしてくださいって行って。

榎田：えっと、神清明祭には料理を作らないっていうお話なんでしょうか。カミウシーミーで作る人は限られてる：：：

BBB：いえいえ、あの、いわゆる：：作る人は決まってるわけですよ

榎田：決まってる：：：

BBB：そこに直接携わるひとが、作るんで、あの、うちなんかはどっちかといえ、うち：：わたしたちのことをいうといわゆる、つくらんで、いわゆるちょっとお供えしてくださいって行って一升瓶持って行ったり、それで果物持って行ったり、ちょっとまあ、手土産のような格好でお供えしてやるんですよ。

榎田：ああ、その家系があって、カミウシーミー本家の祖先の清明祭をお供えする担当になってるご家系の方と、そうでない家系の方がいらっしゃるという話しですね。

BBB：うん、そう、はい。みんな、それ作りなさいじゃなくて、直接預かっている人が作るんで、それで実際に作るのは、自分が直接みているご先祖さまに対してつくるんであって、なかにあの：：：そこは地方によって違います。（ ）だけ持って行くひともありますよ。作る、作らんはわたし、あの自分の身内をみて言うんですけど、なかにはあの、そうじゃないあれもある：：：また作っていく人もおります。

榎田：ありがとうございます。えっと、たくさんのことをですね、同時に並行できいて、あの：：同じことをもしかしたら二度聞いてしまうかも知れないんですが、あの：：：最近ですね、その：：：警察がやってくれる行事についてですね、ご感想を聞かせていただきたいんですけども、段々ですね、戦争中にお亡くなりになった方が、ご家族をその：：失っていく中で、お元気でいらっしゃるとですね、段々こう、あの：：：特別にあの：：：話しをしてくれとかそういうことがあるかと思うんですが、そういうことはおきてないんでしょうか

BBB：いえ、そういう：：：あの：：戦前、戦前亡くなった方と、いわゆる戦中で亡くなったひとと、いわゆる戦後、事件・事故でなくなったひとがおりますからね、

榎田：はい

BBB：うちはどっちかといえ、もう戦争中、戦争中のことしか言えないんですが、まあ、ひとつは毎年こう警察がやってくれるんだから、本当だったら：：これ、行かなければいけないだろうと、だから、ひとがやるのに対して、文句はつけられんよね、と行ってこう、お互い、こう戦時中に亡くなった遺族は、二、三人、交流してるひともありますけど、このひとたちとこれ話を話するわけですよ。やってくれているんだから、ありがたく、あの：：：受けようやということで。だから慰霊祭の顔合わせするのは、慰霊祭の日には、よく顔合わせして話し合っ、そこで立ち話して、10分くらい話しして、元気？ああ、元気でいなさいね、それではまた来年ねというふうに話しして、帰るわけですよ。

榎田：とくに、あの：：：日頃会うというようなことなく、この慰霊祭のとき

だけお会いになる方が二、三軒いらっしゃるってことですね。

BBB：ええ、ええ、おります。ああ、もうそんなになったのというふうについて、それで、その反面また、毎年十五に、え：：：5月の15日ですか、あの慰霊の日に、慰霊の日には、わたしは必ず行っています、そこは、家族で、全部で。ただ、あの：：：そうご、あの：：：いわゆる沖縄県の総合じゃなくて、島守の塔という、塔に、（県）の職員、いわゆる知事と警察：：：あれはまだ、県のほうはみていないんですよね、あれは：：：警察、あ：：：島守の塔は。管理していないんです、県庁は。

榎田：はい。ごめんなさい、と、島守の塔って今、おっしゃったんでしょうか。それは同じ場所にある：：：んでしょうか

BBB：え、摩文仁にあるんですよ。

榎田：摩文仁に：：：それは警察の関係の碑：：：なんですか

BBB：いや、いや、いわゆる警察、警察職員、知事と警察本部長の碑があって、これ、そこに職員：：：いわゆる、警察、県庁職員と警察職員が：：

榎田：はい

BBB：一緒にこう：：：あれされてるんですよ。

榎田：はああ、えっとこの波の上公園ですか

BBB：あれは、警察の。

榎田：あれは、警察の。

BBB：あれは警察の、警察だけの、いわゆる戦中、え：：：戦前、戦中、戦後の職員が祭られているところですよ、あれは戦争中のものですよ。

榎田：ああ、ああ、この島守の塔は戦争中の慰霊祭なわけですか、で、日付が決まってこう慰霊祭が行われているんでしょうか、その摩文仁の丘の島守の塔は

BBB：ええ、やっています。

榎田：それが5月15日

BBB：ええ、5月15日。それでそのときには、わたしたちは必ずもう行っています。家族で行っています。それで時々、この：：：みんな親戚、関係ある行って、押んできようというふにして、行きますよ。

榎田：えっと、初めて伺ったので、その島守の塔の話しをこちらの係長のDDさまからは伺っていなかったのですが、そのときには警察関係者、つまり現役ですよ、も来るんでしょうか。今のはご家族の方のお話：：：

BBB：一回だけです

榎田：はい

BBB：何年だったかな、わたしが退職して、退職して何年目だったかな：：：  
：あのときね：：：そのときに一回あの：：：島守の塔であの：：：慰霊祭しましたよ。島守の塔で、警察の職員のこっちでやる、え：：：こっちで、こっちは抜いて、あそこでなくなった人の家族：：

榎田：はい

BBB：を、慰霊祭やったんです

榎田：え、島守の塔で、県警の慰霊祭をしたことがあるってことですか

BBB：ええ、一回あるんです。これはね、

榎田：はい

BBB：え：：とね、え：：：と、あのね、警務課に記録あると思いますよ。

榎田：はい

BBB：あのね、あのそんときのあの：：警務課長だったかな、なんか、あの：

- ：KK（姓）とって、KK（姓）LLLL（名）さんって、
- 榎田：はい
- BBB：いま、防犯協会におられる：：：この方の：：そこで一回だけやりました。わたしは、あの：：：あの：：：招待受けましたのでね、
- 榎田：はい
- BBB：あの島守の塔で、戦争中の警察官の慰霊祭：：うん、やりました。
- 榎田：えっと、今、島守の塔を管理しているのは徳島県：：あ、ごめんなさい、沖縄県：：：が管理して：：
- BBB：いえ、沖縄県の法人、なに法人かな：：あの：：：あれ：：：：う：：：なんていうんですかな、まだこう、県の手に落ちていないようななんて話しておりましたからね。
- 榎田：ああ：：なんか法人管理でらっしゃって
- BBB：ん：：法人の関係のあれでやってるってゆうようなこと：：：だからあの：：今はきれいになっていますよ、あの：：修復してですね、きれいになっていますよ：：：
- 榎田：それはそれは。
- BBB：それで、あの名簿も：：名簿も、もう、乱雑で見えなかったんですけどね、今、はっきり、きれいになってありますよ。
- 榎田：おお、そこには、えっと、県職員と、県警の関係でお亡くなりになった、戦争中の方の名簿が全部載ってるわけですね。
- BBB：ああ、載ってる。あって、それで慰霊祭、沖縄、県のここでやる慰霊祭を：：：戦争中のあれだということで、戦争中で亡くなった警察職員の家族で一回だけそこでやりました。
- 榎田：その年には、秋にやります、この波の上のところのですね、祭典はなかったということでしょうか。
- BBB：それは：：
- 榎田：両方やったかもしれない：：：
- BBB：いい：：やった：：：そこはわかりません。
- 榎田：はあ、はあ、はあ。
- BBB：たぶん、どうだってんですかね、一回だけ、わしはね、退職して：：：（定年）：：：退職して：：：：（二カ年）目だったかな：：：またね：：：あの：：：：とにか、とにかあの：：：あれははっきりして、あ、あの：：日にちがわかんないだけであって：：：
- 榎田：わかりました。5月15日〔注：1972年の同日は沖縄施政権返還の日〕というのは、なにか特別な日なんでしょうか、島守の塔の。
- BBB：ええ。島守の塔じゃないよ、そ：：あの：：：各慰霊塔、慰霊塔の：：：この：：：あの：：：あれですよ：：：しゅ：：いわゆる沖縄の終戦記念日：：：
- 榎田：6月：：：
- BBB：6月23日
- 榎田：23日ですよ
- BBB：、うん、そうそうそう、6月の23日に、あの：：そこであるんです。
- 榎田：はい、はい。
- BBB：あの：：：ぜん：：もう全慰霊塔の：：あの：：あれがあるんです：：：それで、最初それもやりながら、また、こう沖縄県主宰の：：この：：いわゆる総理大臣とか招待しての：：：

- 榎田：ええええ、式典やってますね。
- BBB：あの：：式典が。あれをやって、あれからわかれていって、いわゆる島守の塔をやったり、あれ各中学の：：：中学の：：あの：：：ひめゆりの塔とか、健児の塔とか、いろんなこう：：塔がありますね、あれの慰霊祭があるんです。その塔は、その時は。
- 榎田：あの：：：お母様がですね、役員をやっていらっしゃったというお話と関係があるのかなあとも思うんですけども、どうなんでしょうか
- BBB：いえ：：それは：：：あれに行くんです、あの：：：（県警主催の）
- 榎田：つまり6月23日にずっと行かれていたわけですよ、そうするとご家族の習慣として、6月23日はまあ、慰霊祭に行かれるという：：：ご習慣が：：
- BBB：そう、そう、そう：：：
- 榎田：まあ、お母様がいらっしゃればお母様が行かれるし：：：
- BBB：もう、行ったんですが、家族も全部行って、あの：：：慰霊塔：：：そこを拝んで、一年に一回ですから、もう：：：一応出て、歩いていくんじゃないしに、（ ）で行くんだから：：：（ ）っていうことですね。
- 榎田：いえ、今のは、あの：：たいへん、あの：：面白いと言ったら失礼ですけども、
- BBB：いえいえいえいえ
- 榎田：あの：：興味深いお話で、やはりこう：：お亡くなりになった原因がですね、その犯罪者に撃たれたとか、そういうことではなくって、砲撃を受けてですね、お亡くなりになっているっていうふうな事件ですと、ご家族の気持ちとしては、戦争でお亡くなりになったという、そういう気持ち強いのかなと思って、聞いたんですけども
- BBB：そう、そう、そうです。だから、亡くなったひとも、親父なんかも、こう：：：犠牲になってあれだけど、僕らも疎開していって、苦労した：：人よりは苦労はしなかったんだけど、いわゆる、犠牲者の一人だよといって、みんな話しをするときがあるわけですよ、兄弟、集まる場合はですね：：兄弟が集まる時にはもう：：どっちかといえば、お盆のときですね。
- 榎田：こちらは八月ですか、七月ですか
- BBB：えー、旧のですね、旧の、いわゆる：：：旧の、旧でやりますから、旧の13、14、15ですね。だから25：：：25、26、27ですか：：：あの：：新では：：：
- 榎田：七月の25、26、27：：
- BBB：いえ、いえ、旧の、旧の、七月の13、14、15ですから、いわゆる、新でいえば、八月の：：：にじゅう：：にじゅう：：25、26、27。
- 榎田：はい。じゃ、今年も、もうしばらくしたら：：：
- BBB：え、え、そうなんです。
- 榎田：お参りをしなければいけない：：：
- BBB：七夕には必ずまた墓参りして、墓を掃除して、墓参りして、あの：：：やります
- 榎田：いや、あの：：：疎開っていうものを知らないの、こう：：いろいろ勘違いしていて、東京大空襲ってあって：：今あの：：大空襲資料館[現在の東京大空襲・戦災資料センター]っていうのがあるんですけど、そこ



の部屋のなかにですね、疎開の部屋っていうのがあるんですよ。その：  
：東京大空襲で10万人、あの：：人が亡くなったっていうのは知って  
いたんですが、その、記念館のなかに、かなり大きな部屋で「疎開の部  
屋」っていうのがあってですね、疎開ってそんな大事件だったのかなっ  
て思ったら、大事件なんですよ、疎開っていうのはみなさん、苦勞な  
さって

BBB：ええ。もう：：あのときには、急にですね、話し：：帰ってきて話しき  
いたら：：疎開船がやられたっていうときには、疎開するひとはもう  
：：半減してるんですよ、聞いたら。もう自分も行こうと思ったんだ  
が、疎開船（ ），もうここで、同じ死ぬんだったら、沖縄で死んだ  
ほうがいいよっていうひがおりました、うちの：：あの：：ここ  
にきて、学校入ったときに：：昭和二十：：が、学校に入ったのが  
：：終戦が二十年：：引き上げが：：二十一年のあれですか  
ら：：引き上げてきて、二十二年ですか、二十二年には学校入って、  
そのときに、その話ばかりでしたもん。

樫田：疎開の話ばかり：：

BBB：疎開の話ばかり、もうね、お寺で：：お寺：：小さいお寺：：  
各：：各内地には、各字にもお寺ありますよね：：あの：：なに：：あ  
の小さいお寺に、一回この二世帯くらい：：という、親戚もあるかもし  
れん：：みんな親戚みたいなひとが集まって、お寺の本堂を借りて：  
：やや大きいところでは：：うちはね：：何所帯だったかな：：あ  
れはいま：：あれにはいって、昼、昼になるとあの、本堂、本堂をあ  
けて、晩になると、晩になると、すぐ晩とか、あの：：晩になるとす  
ぐ、荷物もってきて、荷物でもこの、くぐりつけて、ひとりに一畳です  
から、一畳でひとり：：という計算で：：あれしましたからね、そ  
して、炊事を：：炊事を、お寺のこの：：木の下に：：離れたところに、  
あの：：炊事場を、バラック：：炊事場をつくって、そして、今のよ  
うにコンロとかあれは無いもんだから、かまどをつくって：：かまど  
をつくって、薪を：：薪は杉の木とか、この：：八代ですから、農  
家のあの：：わらをあの：：運んできて、そこに置いたりして、それ  
を：：あの：：いい天気には薪拾いしたり：：もう一番、冬がね  
：：はじめての冬はもう大変でしたよ：：沖縄では：：おれ、な  
んでここに来たかなーと思って（笑）：：

樫田：あー、はあ、はあ、はあ。

BBB：もう：：うちの妹なんか、もう：：霜腫れしてですね、もう：：沖  
縄がいい、死んでもいいから、沖縄がいいというふうにもう：：あれ  
したことがありますよ。だから、そこで、その住職はもう大変あれで、  
土曜に、もう暇なときにはきて、お経あげてみなさん、みんな頑張っ  
てるんだから、沖縄では、っていうことで、そこで説教をして、それ  
でお経でも唱えて心を落ち着かせなさいということ、は：：般若心経で  
：：やったら、少しは落ち着くでしょうということ、みんなそれに  
やって：：でもなかには、もともと、沖縄にはそういう：：この：：  
：：宗派が無いもんだから、（笑）だから、ばあさん：：ばあさん、  
連れて：：沖縄の：：うちのばあさんなんかだったら、坊主のいうこ  
と信用できなくてっていうばあさんもおりましたからね、そんなもん信  
じるもんじゃないよ、自分の祖先を信じればいいんだって、なんでほかの  
：：あれをやるかっていう年寄りもおったですよ。それで：：日曜

になれば、説教の日は、また部落民が来るもんだから、また片づけてです  
ね：：：

樫田：はい、はい

BBB：そいで、こっちからは何も持って行かんで、布団も持っていかない人は  
またあの：：：そこの：：八代の：：え：：（やっちょう）だったかな  
：：どっかわからんけど、そこのぶら：：あの、村から布団と、掛け布  
団とがああ、配給があつてね：：：

樫田：貰って：：：

BBB：貰って：：：そいで晩になると：：だからあの：：あれですよ、うちの  
弟なんかは、米が実って、こう穂を垂らして：：お母さん、この草の  
中にお米がはいってる、お米が入ってるって言ってですね、もう：：ぐ  
るぐる回ってですね：：これだよ：：お米取るのはこれから出来るも  
んだよと言って、あの：：：言って、もう：：：

樫田：それは：：沖縄ではみたことがなかったということですね

BBB：なかった。この辺にはな：：この辺には：：那覇である程度：：この国  
頭（くにがみ）とかこの辺には：：ところどころにしかないんですもん。  
主に芋ですから。サツマイモですから。（よく）あつて、うちの国頭の  
本部っていうところで初めて：：この：：あれで：：お米は：：：初  
めて、弟、みるんですよ。なにができる：：：こうだよ、ああだよとい  
って、言いますしね：：もうあれなんか見たらもう：：：あんたがたも  
ねえ、都会育ち（ ），那覇育ちだつて、こういう：：あれしかわ  
からないから、お米のどうできるかもわからないでねえっていつてね、  
話したことがあるんですよ

樫田：それは、弟さまがそうおっしゃつたわけではなく：：：

BBB：いや、弟が、言ったんですよ、

樫田：弟さまが：：：

BBB：弟が、母親に言ったんですよ

樫田：はっはっはっ。これが、米だと：：はい、はい。今回ですね、その：：  
戦争にあたって、こうお亡くなりになつた方一名、その後お亡くなりにな  
つたかた、おひとかたのそれぞれご遺族にお話を伺つてですね、さつ  
きこう：：たぶん、こう、え：：：該当しなかつたからお返事がなかつ  
たと思うんですが、叙勲というお話しもですね、年金、叙勲というお  
話もですね、伺おうと思うのですが、お父様は叙勲は受けていらつしゃ  
るのでしょうか。

BBB：ええ：：受けていました。はい。

樫田：それはいわゆる、死後叙勲：：：

BBB：死後叙勲ですね：：：

樫田：で、勲、何等で：：：

BBB：あ：：それ、それがわかんないんです

樫田：お母様がみなさん、こう：：処理なさつて

BBB：はい。だからその書類が：：：どうなっているのかなあ、ちよつといま、  
まだわたし、見てはいないんですけどね、どうなっているんだか、これ：  
：：聞くものは聞いとかなきゃいかんなど（しんしょくん）ですね

樫田：そうしますと、お父様のお墓つていうのは、いつお建てになつたんでし  
ょうか

BBB：これはですね：：あの：：：うちの：：沖縄の：：あの：：：お墓は  
もう、ずっと：：出来てはおるわけですよ

樫田：はい

BBB：出来て：：：正式にそこへ：：あの：：出来てはおるんですが、いま、  
沖縄のお墓っていうのは、きれいに：：最近はきれいに出来たって：  
：いま、いまの墓はもう：：：昔の墓はくり抜いて：：：いわゆる：  
：：

樫田：こう、でっかい：：：

BBB：い、い、いや、小さくこう：：：つくってあるんですよ。

樫田：は、は。

BBB：だから：：：これを：：やっておるんですが、あの：：：ずっと前から、  
前の祖先からの：：：じいさん、え：：うちのじいさん、じいさん  
からのものとずっとその：：父親の兄弟のものとかあるわけですよ。そ  
れから、前から作ったのをわたしが引き継いだだけです

樫田：ご長男系列でいらっしゃるから、おじさんのものも引き継がれているわ  
けですね

BBB：あ、あ、はい。

樫田：それは場所はどこに：：え：：：と八重山のほうに：：

BBB：いえいえ、八重山のほうからですね、何年になるかな、十年：：：十：  
：：もつとなるかな：：：二十なん：：なるかな：：：いま、わたし  
が那覇のほうにあの：：：いわゆる：：：ひとの：：：人っていうよりは  
親戚が：：：つくった墓を：：が：：墓を：：：こう、移動：：あ  
の：：別に移されたもんだから、うちが、いわゆる：：：そこを：：  
併置して使ってるわけなんですよ

樫田：えっと、那覇市内の：：：どっか山のほう：：：

BBB：え：：：ちょっと：：この：：墓地地帯に：：：

樫田：墓地地帯で：：：それはお金：：が掛かると思うんですが、DD（BBB  
さんの名の部分）さまがお出しになったってということでしょうか、墓地  
の整備に関して：：：

BBB：いやいや、そういう：：あの（笑）：：：あれするまでもない、これは  
あの金の問題じゃない：：自分で：：：もう、草をあれしたり、草刈り  
機で草切って、きれいにあれしたり：：：

樫田：えっ、えっ整地：：その草刈りから全部、dd（BBBさんの名の部分）  
様になさったんですか

BBB：え、え、わたしがやりました

樫田：え——：：：

BBB：ちゃんと、あの：：あれして：：：こう、沖縄のもんは最近が：：：こ  
う：：：遺骨をこう入れるようになって：：：もう（ ）新しくなっ  
ているわけですよ。昔は、沖縄はどっちかっていけば、洗骨ってって、  
あの：：やる：：いわゆる：：：なんていう：：：洗骨とってもう：  
：：五年か：：五年か、六年ころに、やる：：：みんな：：あの：：お  
酒でぜんぶ：：あの：：遺骨はですね、この瓶は大きいんですよ、昔  
のは：：：今はみんな火葬ですから：：：昔はぜんぶ、あ、今は全部火  
葬です。今はもう：：：いわゆる洗骨とって、骨を洗うあれはないん  
です：：骨を洗うとですね：：このくらいの大きな：：：あの壺やに  
いったら、この瓶ありますよ、まだ：：：

樫田：ああ、大きな骨を：：：焼く：：：焼かないで：：だからでかいわけ  
ですね

BBB：ちゃんと、足から、最初足入れて、胴体入れて、それから最後にこの、

あれを骸骨をいれて、蓋を閉めるんですよ。その、あの、今はもうそういうあれはないんですけどね

樫田：そうか、大きな瓶ってのはあの全身入れるために、大きい瓶になっているんですね

BBB：おおきい：：：見たことありますか？おおきい、おおきい：：：あの：：：壺やにあるんですよ、

樫田：はい

BBB：大きい、あの蓋のついたね、こういう：：あの、あの：：：上は蓋が、蓋がちょっと開いて：：：中は：：：あれは：：：あの：：：沖縄でいう、シーシーガーミという、いいですよ：：シーシ、シーシーシーシ、シーシー瓶、

村中：あ、シーシー瓶

BBB：いわゆる、シーシーガーミー（骨壺のこと）って言うてですね

村中：あ、ガーミーですね、はい、はい、はい、ガーミー

BBB：そいで、戦前は、ほとんど、地方では洗骨ですから、あ：：：戦後は火葬です：：：だからそんなときには、あれですよ、そんなときの行事というのはもう：：いわゆる、重箱でお餅かなんかも飾って行って、泣きながらですね、泣きながらもうわあわあ思い出してこう：：：昔のあれを、話ししながら、泣きながら、この：：洗骨したもんですよ。あんまり衛生的ではないんです（笑）、それは：：：もう、もう：：：（よいす）でしょう、それでこう：：変な話しして（しまった）、こう：：：手袋はめて、お酒でこう：：：ぜえんぶ：：：

村中：お酒で洗うんですか

BBB：お酒で洗うんです。お酒で洗うんです。

村中：ふーん：：：洗い流したものはどこへ行っちゃうんですか

BBB：いわゆる、ちゃんと底のほうへ：：：ちゃんとあの：：：洗って、置いて、それでそれをいれながら、それでそれで、最初いれて、中にいれてから、今度、ご馳走を広げて、そこで安住して下さいって行って、あれするんです。（だけど）あの：：：沖縄も、最近ですよ、お坊さんがお経あげるのも、告別式も：：：あの：：：告別式とか、いわゆる法事のたんびに、那覇市内ではあれ：：：いま：：あの：：：地方に行くと、坊さんは、告別式に：：：亡くなったときだけしかお経をあげないんですね、告別式とか、ああいうとき、お葬式の日にはか：：：普通はですね、みんなあの：：：そこの長老とか、いわゆるあの：：：なんていうのか、あの：：：：なんていうのかな、あの：：：う：：：：：この：：：：沖縄では、ユタと言ってるんですけどね、

樫田：はい。

BBB：ユタとって：：：

樫田：え、わかります。ユタ：：：女性の方ですね

BBB：女性も男でも：：：

樫田：男でもいらっしゃるわけですね、はい。

BBB：男でも：：：それで、その人達が、あの：：：やる：：：：：呪文、唱えるんですね、こう：：：だから：：：こういつてる、ああいつてるって行って、この：：この：：透視したようなあれで、こう、こう、こうなってる、ああなってるって：：：これを：：：信ずる：：：今でも地方はそういうひとがおります。なかの、長老：：：この、女の長老、男の長老が、こう：：：あの：：：呪文唱えて、こう：：：あれするようになってる

んですよ。だから南部の方では、告別式でも坊さんがお経上げないです。  
あの、みんな、こういうその、ユタがやっていると聞いています。

榎田：もとの話しに、あの：：少し戻ろうと思うんですが、

BBB：はい、はい。

榎田：今ですね、あの：：やっていらっしゃる、その：：こちらのナミの上：  
：のほうの慰霊祭について、ご意見を伺おうと思うんですが、え：：と  
どんなものでしょうか。もう：：その：：：

BBB：ええ、ええ、あのですね、

榎田：ルーティーン：：いつもどおりのことをやっているというふうには見  
えるんですが。

BBB：ええ、こっちはこっちで、やりますのでね、別にわたしたちが：：あ、  
これはこうだ、ああだという：：：やってあげ：：：もらえるだけでも  
ね、ありがたいと思ってます。

榎田：意見を聞かれたりすることはあるんでしょうか。進め方について：：全  
然：：

BBB：いい：：え：：：そういうことは：：：これでいいでしょうかっていう  
ひとがおるかどうかはそれはわかりませんが、

榎田：はい

BBB：まあ、慰霊祭ですから、きて下さいとって言われれば、はあありがた  
いもんやってあげるんだから：：：行こうというふうなあれに：：なる  
とおもいます。わたしはわたしの考えとしては、やってくれているんだ  
から。これ：：：やる：：思い出して、一年、一年を思い出して、やる  
：：戦争で亡くなったのは、もうみんなやったんだから：：：やる：：  
なんぼでも、一回ずつ行ってるんだから、あの：：：一年に一回は行っ  
てるんだから、こっちも一年に一回だから、毎日来なさいなら話しは別  
だけど、行った方がいいんじゃないかというふうにして、よう話し合い  
：：って：：：

榎田：こちらはだいたい週末にやってらっしゃるっていう感じでしょうか

BBB：そう、そう、週末ですね

榎田：週末で

BBB：週末にですね、いわゆる十月、十一月は忙しいはずですから、十月の末  
頃に、あの：：：まあ、一時間くらいのもんですから、まあ、一時間半  
くらいのもんでしょ？これ、一時間半くらいのもんですよ

榎田：音楽：：楽隊もいれてってかんじですね

BBB：ええ、ぜんぶあれしてて、いち：：いち：：：あれ、時間書いてないね

榎田：時間書いてないですね、ぼくこの資料：：：あ、ここに：：：

BBB：招待状には書いてあります。

榎田：なるほど、はい。

BBB：いち：：一時間、一時間半くらいのもんですからね、

榎田：はい

BBB：なにも、来て：：：ここにどうする、どうしなさいと言われてるわけ  
はないんだから、きいてやってくれるんだから、うちの亡くなったひと  
のために、わざわざ：：：わたしたちとしては、時間を割いて、やって  
くれるんだから、行っていいんじゃないかっていうふうに：：四、五名  
集まったときに話しをしたことがあるんですよ

榎田：はい

BBB：あの：：：いわゆる：：：毎日でも：：なんか言われたんでしょね、

なんかそれもわからないから、どうもねっということで：：：わざわざ  
 予算もたててくれて、やってくれてるんだのに、こっちが、いやという  
 ことはできないでしょう。そいで、むこうがやるんだから、こっちがこ  
 うしなさい、ああしなさいと言って、まあ：：：口を挟む必要もないん  
 じゃないかなと思うときがあるんです。それはあの：：：なぜかといえ  
 ば、62年も：：：62年もあそこで、あの：：：シマグニのあの：：：平  
 和：：：あの：：：

樫田：平和のイシジのところ：：：

BBB：平和のイシのところ、おがんでるんだから：：

樫田：はい

BBB：一年に一回なんだからというふうに：：：こっちも一年に一回、あそこ  
 も一年に一回だから、一年に一回はいいんじゃないのというふうなあれ  
 なんです：：：：：これは、忘れたらもう：：：：ダメだよって：：  
 ：だから：：自分の、自分のいわゆるこども：：：ひいじいちゃんはこ  
 うだったよ：：：：ということ、あるいは：：孫にでも、その孫にで  
 も：：：ひいじいちゃんはどうだった、ああだったとって、語りぐさ  
 のようにこう：：：伝えていくことができるんじゃないかということす  
 ね：：：：

樫田：えっと：：お子様：：は、何人かいらっしゃって

BBB：わたしは三名おります。

樫田：三名：：：今のお話は、つまり、えっと：：：場合によっては慰霊祭を  
 ですね、

BBB：はい、はい。はい。

樫田：お子様のほうにひきついでく：：：

BBB：はい。（いいます、はい）、ここはこうだったよ、こうだったよって。  
 あそこはどうで、こうだよ、ああだよという、ああ、あの：：：どう  
 ね、お父さん、ここはどうだった？どう：：：どう：：：聞いていない？っ  
 ていって。うちの母親は子供達に、こう：：：盆のときなんかよく話し  
 して：：：じいちゃんはね、ここでこうこうだったんだよ、それで、こ  
 うだったんだよ、とってね、あんたより体格大きかったよっていって、  
 そいで、柔道、柔道もしよった、剣道もしよったんだよっていってね、  
 （いう、こう）、うちの母が自分の孫に対して、こういう話しをしてで  
 すね、弟の子供にも、こうだったんだよ、なんか昔のひとはこうだった  
 んだね、ああだったんだねって今の考えでいうもんだから、いや、あの  
 ときはもう（のがら）だったんだからっていって：：：

樫田：いまのは、あの：：：d d（BBBさんの名の部分）様についてのお話を：  
 ：：

BBB：いや、いや、いや

樫田：ではなくて、もうひとつ上の：：：おじいちゃん：：：

BBB：うちの親父にたいしての、親父にたいしての：：うちの母が、じいさん  
 の話しをするわけですよ

村中：お孫さんに：：

樫田：えっと、つまりそのときに話題になるのは■■さま：：：お父様の：：  
 ：お話を：：：

BBB：話題、話題、話題になるわけ：：：

樫田：ということは、お父様は柔道も剣道もお出来になったということなんで  
 すね

BBB：ええ，ええ，ええ，してた：：ですね

樫田：ほお．で，体格もd d（BBBさんの名の部分）さまより良くていらっし  
やった

BBB：よく：：あれして：：：だからよく戦前の：：戦前のことですから：：  
：

樫田：はい

BBB：戦前の九州大会にはよくあの：：九州大会にでて：：：このお土産な  
んかもらったあれがあるんですよ，九州大会にでて，

樫田：へえー

BBB：お土産もらって，九州のお土産だよって言って，やったことあるんです  
よ

樫田：え：：と，現役の選手として，

BBB：はい．

樫田：柔道を：：：

BBB：え，え，あの：：（や，いっていたわわけです）

樫田：九州大会に

BBB：九州大会で

樫田：へえー．それはそれは：：：思い出に語りやすいお話ですね

BBB：そう，そう，そうです．

樫田：ええ．へえー

BBB：それで，あの：：：その話しとか，うちの母がよくやりやったんです  
よ，

樫田：はい

BBB：こうだよー，ああだよーって言ってね，やりやったんですよ．昔は，写  
真：：写真が：：：写真機というのが，あの：：カメラがないから，あ  
の：：：ブックもってこう：：

樫田：スケッチ：：：

BBB：スケッチしやったんだよーとかね，

樫田：はい

BBB：また息子はまた：：：ちょっとスケッチかくれとってやるんです，僕ら  
には見せないけど自分でやってるあれがあるもんですから，あんた，じ  
いさんの血を：：：つないでるねえって言って：：言ったりするときが  
あるんですね．

樫田：その：：：警察職員でいらっしやっただっていうのはですね，え：：：今  
日お会いして初めて伺ったんですけども

BBB：ええ，そうですか

樫田：資料によりますと，戦後24名の方がですね，ご殉職になっているとい  
うふうに資料はなっているんですが，お近くのこう：：職員の方でご殉  
職なさった方ってのもいらっしやっただでしょうか．警察職員時代に：  
：：あの，戦前，戦争中に105人お亡くなりになっているので

BBB：ええ，戦争中もですね

樫田：はい

BBB：戦争中もあの：：：亡くなった：：：ひとで，あの：：：つきあい  
というのはあんまりしてないんですけども，（わたし）たちは：：：

樫田：はい

BBB：いわゆる，警察職員，あの：：戦争，戦時中の警察職員であっても，ぼ  
くもお寺で，お寺で疎開先で一緒だったとか，あるいはその：：：たま

- たまうちの：：：母親が、あの：：：あちこちこう、警察職員の：：：家族とあって、この殉職したひとの家族とあって：：のつきあいですので、そのへんのところはちょっとわたし、わかんないんですが：：
- 樫田：なるほど。いえ、あの：：さきほどえっと、え：：：ナミの上：：：ナミの上：：：旭が丘でお話をなさるのは、あの：：：お父様と同世代でお亡くなりになった方々のご遺族同士で：：
- BBB：はい、はい、はい、え、え、え、そう、そう、そう、そうです
- 樫田：お話し合いになると言ったんですが、警察職員の方でいらっしやったんで、あの：：：戦後お亡くなりになった方も：：その：：え：：：この：：慰霊祭でですね、お話になるのかなと思ひまして。
- BBB：い、い、いえ、そうじゃないですね。あのね：：：あの：：：：わたしの見てる範囲内では、
- 樫田：はい
- BBB：戦争中は、戦争中のこの：：：家族と、まあ、一緒に他のところはやってるかもしれませんが、そこはわかりませんが、わたしの見た範囲内では、なんかこう、戦後は戦後：：：あの：：：戦争中は戦争中にこう：：：分かれてるような気もするんですね。
- 樫田：ま、警察の組織がね、変わってますからね。戦争中は内務省職員でいらっしやいましたし：：：戦後は県警ですから：：：
- BBB：ええ、はい
- 樫田：おおむね、あの：：お伺いしようと思ったことを終えたんですけども、今後のですね、慰霊の仕方、追悼の仕方について、え：：：理想的なこう：：：ものはこうなんだけどな：：とかですね、こういうふうになってくれたらいいなっていうような夢をですね、お話頂けるとメモをして帰ろうと思うんですが、教えて頂けないでしょうか
- BBB：そうですね：：：まあ：：：わたし：：：にしては、今までどおりでいいんじゃないか、それに：：口をはさむ：：：こともできないしですね、かえって、やってくれるんですから：：：：ありがたいという気持ち：：：ほんとにありがとうございますとしか、言えないですね：：：：あの：：：これ、ここはこうしなさい、ここはこうしてもらいたい、これはこうしてもらいたいといって、まあ、どちらかといえば：：：時間にしても、一時間半くらいだもんね、これで、むこうが：：誠心誠意、心をつくして、ああいう、この：：：平和：：：なんですか、この：：あの：：：なんていうんですか：：：旭の丘で、ここでもうやっているんですからね、別に、わたしとしては：：わたし個人としては：：ありがたいと思っておりますよ
- 樫田：その：：いま、お話を伺ったのは主に慰霊する側、生き残った側、ご遺族の側からのですね、お話を伺ったんですが、まあ、空想の話しなんですけども、お亡くなりになったお父様から見てですね、こう：：：我々が慰霊をする、碑を建てる、追悼式典をするっていうことは、どんな意味をもっているというふうにお感じになっているのでしょうか。
- BBB：むこう：：：むこう：：：：
- 樫田：お父様からですね、見たときに：：：
- BBB：そうですね：：：まあ、父としては：：：：もってる：：：何と云っていいかな：：：：：ありがたいと、いう気持ちじゃないですかね、ありがたい、もう：：：なにもすることはできなかったんだけど、あんたらが、生きていてだけで（笑）、わたしは嬉しいよというふうな、あれ



になるんじゃないですかね：：：わたしはもう：：：あ：：悪いようには解釈はしません。もう：：：（あ：：： だろう）といえる、ありがとうといってるんだらうといっ、みんな家族こう生き残って元気だからというふうに：：：思うときもありますね。いわゆる、兄弟4名、いま4名おるんですけど、わたしは（ ）4名おるんだけど、話をするときには、早く死んだほうが、死んだほうがバチ：：馬鹿だよなあって、というて、いま生きてこんなに（笑）裕福な生活してるんだらうに、なんで、はやく戦争して：：もう戦争ほどやなもんないんだけど、こんなにあの：：：（笑）なんていうんか：：あの：：：はやく死んで馬鹿じゃないかというふうなことをいう：：：ちょっとアルコールが入って話をするときもあるんですけどね

樫田：そのなかにお父様も含まれてる：：：

BBB：はい

樫田：わけですね

BBB：そうです。

樫田：生き残ってらっしゃれば、まあまだ若くしてらっしゃったから戦後三十年も、四十年も：：：

BBB：そうですね

樫田：生きていられたのについていう：：：

BBB：だからあの：：：疎開から帰ってきて、うちの父と同じ年齢のひとがたくさんこう：：：：たくさんといったらあれだけど、生き残ったかたがもうわたしがざいそ、在職中でも、もういろんなあれだよ、あんたのおやはねこうこうだったんだよ、ああだったんだよということを知ればね、あれ：：：：こう：：なんで親はこんなに早く死んだのか、馬鹿だったんだよなといっ、なあ、親父って呼ぶときがあるんですね。

樫田：えっと、生き残られた方とお話をして、そうではなくて、そういうのを見ていらしゃって：：：

BBB：いわゆる、おやじと、いわゆる同世代のひとと話してこうだった、ああだったっていう、戦争中、この疎開さ、え：：疎開したあとからこうこうだったこうだったって話するでしょ。

樫田：はい

BBB：聞かされているもんですからね、あ：：親父は馬鹿だったんだなあというふうに、もうすこし逃げるということをわからないのかなあというときがあるんですね、逃げて、逃げていって、もうすこし要領よくやればいいのに：：あんまり要領が悪かったんじゃないのというときがありますけどね、へへ。

樫田：ま、危険を顧みず、お働きになってってことですよね。

BBB：そういう：：：教え：：：教えられてきてますからね、もう、必ず国のために、国のためについて言われたのがね：：：

樫田：それは、お母様のご感想でもあったら思っいいんでしょうか。

BBB：そう、そう、そうですね。はい。いわゆる、いわゆる疎開先でも、もうとくにショックだったのは疎開先で、子供を亡くしたということでしょうね。もう、六ヶ月で亡くして、またここにきて、さあ、4名の子供をどう育てていくかで、だから、あの戦後学校を卒業してでも、あのとき沖縄では戦後、仕事というのはいもう、アメリカ軍のいわゆる、アメリカ軍の仕事なんですよ。

樫田：はい

- BBB：運転手したり，運転手したり：：：それで沖縄では，県庁といって（ ）  
 民政府というのがあって，そこの：：：民政府にしか，入ることさえで  
 きない時代ですから：：：だからそこで，もう：：：なるんだったら軍  
 作業員か，警察官か，民政府か，これでしかないんですね，だからわた  
 し警察に入ったのは，十八の歳ですよ：：：十八の歳です．だから，  
 それ，一番苦労したのが母親だと思います．最後まで：：：ところどこ  
 ろぼっぼとこう弱音を吐くような，この言い方はしちゃったんですが，  
 苦労したなあとうことはいうんだけど，亡くなるまで，その話しは：：  
 ：ただ，おやじをいよいよみんな，悪いように言わないで，お父さん  
 は国のためにやったんだからって：：：もう，わるく：：：要領ないっ  
 ていけば要領ないかもしれんけど，おやじは立派に亡くなったんだから，  
 みんな手を：：：こう後々ずっともう：：手を合わせしていこうじゃな  
 いかということ話ししてですね：：
- 榎田：本当にこう，プライバシーに関わっているので，お答えになりたくなけ  
 れば構わないんですが，日本のですね，恩給制度というのは，占領中は  
 通用していたんでしょうか．つまりお父様をお亡くしになった後，お母  
 様は年金をお貰いになっていたんでしょうか．
- BBB：もらってたんじゃないですかね．
- 榎田：それは日本政府が払っていた：：：
- BBB：そう，そうですね．貰っていたと思います．それで，（それが）親のえ  
 ：：父親の年金たぶん貰っていたんじゃないかなと思うんですけどね，  
 そこは：：：それ，それを聞く，どうねって聞くと，なんかこっちがあ  
 の：：：（笑）なにかさぐってる，さぐって，おれのもんだと言われは  
 せんかっていう，そういう，キンの，金のことであれしてるよと言われ  
 ても困るかなと思って，ただ：：：ないない聞いたらなんか貰ってたよ  
 うな話し：：：してますね，遺族，遺族年金ですか．
- 榎田：お母様は，働いてもいらっしやった：：：
- BBB：そうです，あの戦後ですね，戦後あの，疎開から帰ってきて，どう：：  
 ：この：：：あれするかって学校の先生してたよ，教員免許もっておっ  
 たんで．
- 榎田：はい，あの，師範学校でいらっしやったから：：はい．
- BBB：それで，あの：：本部（もとぶ：沖縄の地名）の，本部で学校の先生  
 したんですよ．
- 榎田：小学校？中学校？
- BBB：え，ちゅうがく，あ，小学校です．
- 榎田：小学校で．そうすると小学校のそれこそ官舎，に：：：みなさん：：：  
 BBB：いえ，
- 榎田：そうではなくて：：
- BBB：あの：：：あの，官舎ではなくて，ひとのうち借りて：：：はい，ちょ  
 っとした四畳半の家を借りて，あの：：
- 榎田：じゃ，途中までお母様と：：：
- BBB：え，わたしはもう，すぐ，わたしはすぐ，あの：：：戦争であの疎開か  
 ら一緒に帰ってきた弟の，母親のあの：：：弟さん，いわゆるおじさんが  
 ：：：うち作ってくれるんだったんですよ，
- 榎田：まあ．
- BBB：茅葺き：：：のうちのね，うちをつくって，そこで生活しとって，ぼく  
 らは，わたしはもう：：：すぐ警察はいったもんで，あのいわゆる警察学

校には行って、それでコザに来て、あの：：：寮生活ですよ。

榎田：あ：：：そうですね、警察ですから：：：

BBB：それで：：：：3名の（子達）はもう、母親一人で、学校でるまではもう母親ひとりでだったですね、

榎田：大変ですね：：：

BBB：あの：：：学校を卒業するまでは：：

榎田：どうも、あの、プライバシーに関わることまで語らせて、でもあの、つまりあの、理由をいうとですね、あの：：：公にお父様を追悼なさるのは、式典だけではなくって、年金ていいますか、恩給とかですね、叙勲もですね、国っていうものがお父様をその：：追悼するやりかたですよ、そういうものをワンセットで、その、全部まとめてご家族としてはその、どういう気持ちで受け止めていらっしゃるのかというのを聞いたかったので、あの：：：お金の話しまで伺いました。

BBB：ええ、いえいえ、だからその辺の金銭的なものはちょっとわたしもわかんないですね。だからもらっとったんじゃないかなあと思うんです。そこはあの：：：詳しく、その筋に、で調べなければわかんないんですがね。

榎田：いえ、あの、たぶん警察に資料があると思いますので

BBB：ああ、そうですか

榎田：あの：：：個人のお名前は関係なく制度としてどうなっていたかは教えてもらおうと思っております。わたしはこれでだいたい全部伺ったので、残りがあれば：：：今日は本当にどうもありがとうございました。本当に二時間も、三時間もあの、時間を費やさせて申し訳ありませんでした。



\*\*\*\*\*

【編集後記】

『現象と秩序』第5号をお届けします。巻頭の中恵論文は、日本の社会学では、中恵氏しか研究していない『ヒアリング・ヴォイシズ』研究（聴声研究）の論文です。ご堪能ください。2番目の西澤ほか論文は、日本の社会学・心理学・障害学では彼らしか研究していない『視覚障害者の歩行訓練』に関する論文です。こちらもご堪能ください。このように、本誌に他ではなかなか見ることができない領域の研究論文が多く載ることは、編集子の喜びとするところです。これからも新領域の発掘に努めていきます。

次号には、吃音研究、車イスバスケットボール研究、ALS 在宅療養研究等が載る予定です。ご期待ください。

付記：『現象と秩序』は、国立国会図書館雑誌記事索引の対象誌なので、CiNii 等でも「論文単位」「論文著者単位」で検索が可能です。しかし、なぜか、全文のPDFファイルの入手が可能であることは表示されません。検索エンジンの「窓」に「現象と秩序」と書き入れて頂ければ、すぐに全文PDFファイルにヒットしますので、お試しください。

(Y.K.)

\*\*\*\*\*

『現象と秩序』編集委員会（2016年度）

編集委員

檜田美雄（神戸市看護大学）  
中塚朋子（就実大学）  
堀田裕子（愛知学泉大学）

編集幹事

松下晶季（神戸市外国語大学）  
坂根杏奈（神戸市外国語大学）  
平田菜津子（神戸市外国語大学）

編集協力・印刷協力

村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第5号

2016年 10月31日発行

発行所 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

神戸市看護大学 檜田研究室 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 078-794-8074 (檜田研) ,e-mail: kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html>